# 川柳核



No. 543

特集・川柳と将軍と兵

八月号

姉妹品大和錦印



## 柔道衣 劍道具

早川繊維工業株式会社

SIV 支 店

大阪市大王寺区恰入町29番地の1 電話(779)1690~2番



### 尼崎日産自動車株式会社

若 本 真

木 社 尼崎営業所 宝塚営業所 西 国 営業 西宮中古車センター 神戸営業所 神戸サービス工場 神戸中古車センター 明石営業所 篠 山 営 業 所 篠山中古車センター 姫 路 営 業 所 三田営業所 加古川営業所 西脇新車センター

₹ 665 T 662 〒 653 〒 652 〒 673 〒 669-13 〒 677

T 661

T 661

〒 662

〒 653

尼崎市尾浜町2丁目3番27号 尼崎市尾浜町2丁目3番27号 宝塚市旭町3丁目2番6号 西宮市下大市東町11 西宮市上大市3丁目60 神戸市長田区2番町4 神戸市兵庫区小河通8丁目5 神戸市長田区3番町3丁目228 明石市船上硯町2丁目1 〒669-21 多紀郡丹南町牛ケ瀬字尾ノ谷 〒669-23 多紀郡 篠山町郡家田中の坪842 〒671-02 姫路市御国野町国分寺牛塚56 三田市字新土1610 〒675-01 加古川市平岡町高畑 西脑市寺内町字上492

(06) 426-5861 (大代) (0797) 84-2300 (代) (0798) 52-1121 (代) (7798) 52-0061 (代) (078) 577-0555 (H) (078) 575-5256 (代) (078) 577-2520 (代) (078) 913-0234 (代) (079594) -3 9 9 (Ht) (07955) 2-0603 (代) (0792) 52-4181 (代) (07956) 6 5 0 1 (0794) 23-3144 (代) (07952) 2-6150

(06) 429-5861(大代)

百 x 1 万 K K 1 ル 1 ホ 3 + ル 18 ル は 1 0 ホ 1 ル ル 2 11 5 夜 景

読 2 上 げ 3 旬 10 木 ル ル は 0 な 風 1) を 記 添 念 品 Ž.

得 を 約 め 潮 た 騷 E 顔 柳 10 友 V 0 1 顔 包 う 0 艷

忘

れ

再

会

# 中島生々庵

私はかれこれ十年近く毎朝一時間ばかり歩く習慣がある。それが何時の頃からか私の視く習慣がある。それが何時の頃からか私の視た。別に脚下照覧と大袈裟な意識からでもなく、ましてや老化現象などとは思いたくもない。せめて言うなれば、生活に疲れた、人間臭い、それでいて気取り屋の顔からこの時間だけでも教われたいとの願いででもあるのだろう。ゆき交う人達の足許を見て歩いているとその人の職業や性格や家庭の日暮らしまでとその人の職業や性格や家庭の日暮らしまで

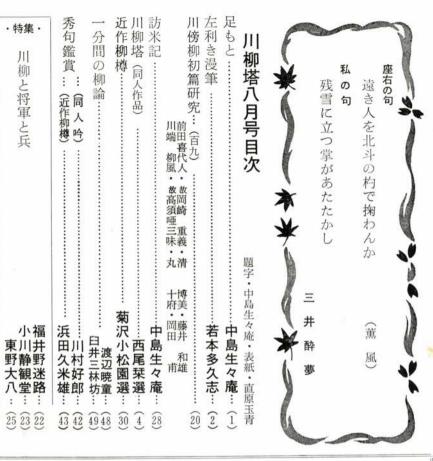
8

足

達の足許にあるのに気付く。歩道の片隅から小さいいのちの息吹が雑草の芽として聞こえて来るし、蟻の営みも見える。心ない都会人は忙しく踏みにじって去ってゆく。私達は機はでも顔の手入れと同じように、たしなみをたれない気構えが大切ではないだろうか。水序さんが死の病床にあり乍ら「見舞客へまともに見えた足のうら」とよまれたと聞いてさすが水府さんらしいと思った。

## 川柳塔八月号





## 左利き漫筆

## 若本多久志

されているので、ここでは余り知られていな の出演や全国各地の新聞にもその運動が紹 り、活動を開始して以来、テレビ、ラジオ 優位が続いてきた。 大政大臣につづいて左大臣、 期(明治十八年)まであった大政官制では、 なったということに始まり、古代から近代初 右の目を洗うと月読の命(男神) の大神が左の目を洗うと天照大神(女神)が つも左が先で右は後になっている。伊邪那岐 い「左」のことを二つ、三つ書いてみよう。 左利き人間の人権を宣言して友の 先ず日本神話に出てくる神々の誕生は、 右大臣の序列で がお生れ 42

ではいつの時代から今の右尊左卑の考え方に変ってきたのかということについては詳やかでないが、和銅、養老年間(西暦七一〇一七二〇年)に古事記や日本書紀が完成した頃、中国から渡来した漢文が当時のインテリに普及して《右従書き》仮名まじりの文が国語の表現方法となり、右優先の思想が芽ばえたのではなかろうか。

て生れて来ており、

根強い迷信に支配される

とにかく地球上全人類の一割は左利きとし

塩だけは切らさぬ母の台所 光 好 陽 子	私の句	古くとも僕には仁義礼智信(路郎)	編集後記(一三夫・葉子)…	一路集「温 泉」	各地柳壇(文秋)…	本社七月句会·······(庸佑) ···	柳界展望(薫風)…	大萬川柳「環境」	初歩教室本田恵二朗…	栞・天笑・酔々・葉子	ざつぴつ・しゆんじゆう	体温と息づきのある句集	木曽路吟行 ······有信新之助…	盲になるなら高鷲亜鈍…	近詠諸家…
			65	$\widehat{\underline{47}}\widehat{\underline{46}}\widehat{\underline{46}}$	61	56	52	50	38		48	27	44	39	39

知られていないのは相撲の分野であろう。 の天才を生んでいる。 ただスポーツ界で余りし、芸術の世界でも枚挙にいとまないくらいし、芸術の世界でも枚挙にいとまないくらいも、芸術の世界でも枚挙にいとまないくらい おいっぱい 東南アジア(日本を含む)を除いて中近東、東南アジア(日本を含む)を除いて

上別きは虫の人間ごけでなく目然界でも埋 を別きは虫の人間ごけでなく目然界でも埋 を、清国、長谷川等みな、左利きの左差しで と位にのして来たものである。

左利きは独り人間だけでなく自然界にも興味のある左右の問題がある。それは台風の目がすべて左渦巻、これは地球重力に関係した時に起こる渦巻も左巻になっている筈である(南半球では逆)再び人間の問題に戻して、老年期に入るとよく脳卒中で半身不随になる人が多いが、この場合、言語障害をも併発しないのは左利きの人だけ。

最後に左利きの失敗談では、日本が米軍に占領された時、ピストル自殺を図ったが死に消えた東条英機大将は、左利きで馴れない普通(右利き用)のピストルを使用したからだ返(右利き用)のピストルをで割れない普と、満州時代彼の副官をしていた栗橋中尉がしみじみと語っていたそうである。



腹立ててみても相手は妻と子か 真劔な手さぐり風に笑われて 想い出が消えそうなので黙ってた 島根県 堀 江. IE. 朗 仁徳さまも戸惑う人を焼くけむり プラウダの記事が気になる周首相 モスクワでジキルとハイド手を握り

千日ビル大火

木

音に生き音の多きをもて余し 見えぬのが倖せかとも思う日よ

千. 代

米子市

八

夕やけに融け合わぬままの雲もあり 追憶のこのへんからが腹が立ち 手応えの余韻も消えた裏目です

喜志西公院

脈打ってそれから悩みとなって来る

修繕のきかぬ仁王の梅雨じめり

松原市

谷

垣

史

好

移されてわが田に伸びる苗ふたつ

息子達の嫁へ

孫いとししかも子の眉そのままに

へそくりもハートも孫に持ってかれ

妬みふと女貧しい世辞を置く 父の日の包みへ母も少し足し

柳 志

本

多

折伏の耳へ上手な阿弥陀経 親のエゴ高く泳がす鯉のぼ

0

吊皮の僕よりデカい女の手 吹けば飛ぶよな気位にしがみつき マネキンを脱がすに何故か羞恥心

ソのゴマ取りすぎ夏風邪引いちゃった

西

尾

栞 選

4

富田林市

岩

田

美

代

	水道の検針ですと長い髪
米子市	
林	
瑞	
枝	
大阪市 大 石	子に迷う母の脇目もふらぬ道
坂	

願 見 談 合 はしても結果は意に反し 63 後の迷い 押し親 が説き

> 手 高

0

妻に

なりたき

里を訪う

16 社場湯 62 事かなえられぬも神の慈悲 って中年家具に凝り

懺悔を女房受け付 け 青森 वें 市 I

よく

遅

か

りし

お

ごる国米の味にもケチをつけ

効いた諷刺社長の気を損ね

1

ナムでなくてよかった蛙鳴く

郭公のように泣いたら死ぬだろう

山県

浜

久米雄

連

れ

藤 甲 古

人の組とカンパイ叫び合い

市

重力を歩く思い を潰ぶす反射カ の届くとこに威容 所恐怖ロー

のモンブラン メラも用なさず

40 り場 女夜明け待たず発ち なき女逃れ るコンパクト

使 派手な柄脱いで女の城に夏 1,2 捨てしたら母が拾ろうて来

すべて金反応待ったなしでくる 二で割った答えに文句つけられる のお国訛りという平和 倉敷市

11

野

克

枝

雲上

0

酒がわたしをはしやがせ

日

本を離れる飯を噛みしめる

言が通じ大きくお辞儀をし

叱 られた子がブランコで母を待ち

変身をしたい

T 翁

沖縄 守る 違

0 \$

女の眉

根なおせまり ありて語を濁

の女に

寸

って生れ来たとは子の知らぬ

顔で話

しができないか

紅

のへ広さのわかる空んなの野心ある小指

きさを比

べて思い

0

前

のキッスへ恐れ入りました

一般市

水

粉

ッドバイスチュ

ワーデスはさようなら

退という潮騒に立

つ孤独

んだもの ばすおん

0

ンプラン

プウエ

1

分

モンブラン 0 三十

形

西 弥 生 水

奥さんが笑い始めた選挙前 ある日の人妻

尾市

杉 鬼

遊

よっ 楽し 肩 肚 還暦は無事古稀 紫煙の輪まるくならない 飛び入りのひょっとこ面 とよあしわらのパンと牛乳 すぎるかせぎに田畑やせゆく 警察で趣 火あぶりは覚悟の太 一と坪 んでいるうち別人が出来上り 婚旅行ガム島焼けをして戻り 案にすぎた日歩の計算 が死ぬ舞台は重い雪の音 す気のお梶へ淡 よせて雨を抜け 63 きは .二人目 こらし 火に燃えて二 4 の舞踊会より 0 葉脈は孫の姿だ 0 味 ± 嫁と対話の茶をすすり 上遊 は川 ょと立つ掛け声も妊婦 H 度く りの 柳と申し までは持つやろか んで腹がへ 一匹の蝶 、困る鯛 い舞台の灯 てる法 恋が燃えはじ 八鼓打 が死死 上げ 日のあ 0 に牛耳られ 処 愛媛県 倉敷市 理 82 機市 真 せり 85 市 なり 若 福 本 渡 柳 島 讱 潮 惠 鉄 朗 花 児 童 性招待 ときどきは別れてみたい比翼 天平の甍にみせる鴟尾の にしんそば食べてきました新平 湯どうふに青葉の映る南 無所属となって姑も嫁もたて サボテンの花に寸暇をいたわら 失敗も出世も同じ酒でやり x そのうちに行きつくやろと歩いてる 反論はしない 変身ができたら政治家覚えとれ 長者番付革命起こしたくなるよ 満 音 空想の翼拡げて神話読む D 京 待 痴とは 愛を信じて小つばめじっと待ち 軍 足に数も云えぬに慾の ディとなって蛙の鳴く今宵 育うけ でない へ痛みの残る胃が迷い で君が行くなら僕 る子供叱って立話 知らず ので成績目を瞑むり て実践し で決議無視する気 寝入った子守唄 たくな 知恵 芸 禅 \$ 0 鳥取市 西宮市 香川 塚 八尾市 家 n 県 香 清 島 水 居 JII 醉 举 H 法 保

K

酒

石燈籠五百基初夏の影つくる三畳半の部屋に松陰幽閉の影夏ミカン車窓にあふれ萩に入る	萩にて	大阪市 正	さっとくるライターに気が疲れ	天皇が一本植えに来たみどり	魂の重さに精霊押してやり	妾宅でとれたボタンを出しそびれ	自分のもはいってる国民総所得	大阪市 有	約束ができず日曜出勤買って出る	たわいない話も二人には楽し	欠伸ばかりしていてツボははずさない	女三人ヒソヒソ話す気味悪さ	休んでまでする趣味実益を兼ね	倉敷市 野	雨しとど無縁仏に香ゆれる	高野山にて	商魂の意欲がひそむ虹の街	大阪にて	新緑へバトン託して散るさくら	過去の日に耐えて仮面にある渋茶	限りある旅路の果の道標	島根県大
		本						信						田								森
		水						新之助						素身								孝
		客						助						郎								華
散歩する相棒いない日が沈む八つ当りしてもおまえは飛んで来た愛犬クロの一周忌 (三句)	香川県	失うものばかり老年反抗期	階段の角度でミニを追うて見る	一線を守り空白だけ残り	イラストで描かれてボクは誰なのか	辻妻の合わぬ話の汗を拭く	和歌山市	犬吠の景色背中に虚子の句碑	磯洗う浪の高さや大洗	三代の遺産で賑う中尊寺	素朴さをたたえて十和田暮れそめる	寝不足の目にさわやかな津軽富士	東北の旅	大阪市 .	嘘だけは言わぬとそんな嘘を言い	負けず嫌いでも金持ちにはなれず	気の好さの受負い妻に叱られる	補助席に乗せられ慰安旅行とか	叱られる嬉しさ恋に落ちて知り	岡山県	両の掌にとる萩焼の柔かき	東北西は海 萩城は風ひかる
	Ξ.						垂							木						池		
	井						井							村						田		
	酔						葵							水						古		

洞

心

水

夢

天と地を殺して人間どこへ行く とげがあるだから薊は美しい 揚花火偶像を売りにお国入り 起死回生定石無視を敢えてする 薄い胸吹き透りそうな若葉風 ささ百合の刈るに忍びぬ可憐さよ 収入役汚職につながりそうな暇 火付けとは草焼きとてもおもしろし かくれては岬また出る遍路笠 悩みある時はおいでと巨岩立ち 想像が嵐を呼んでいる嫉妬 カメレオン染色体のナゾを秘め ふたありの春の推理へ合う歩巾 置みやげ顔を逆さに撫ぜて行き 元の鞘汚れた足袋を履く思い かかわりがねえと孫にもそむかれる 遍路から帰り姑の急に折れ 下刈りを老鶯だけがほめに来る 一本の桜 室戸岬にて さをわかち道草したこみち 山門明るくし 富田林市 今治市 兵庫県 神戸市 1/1 木 河 越 原 村 浜 牧 3 のる 水 人 誤植したのが秀句に推されたりやっぱりペン一本では二本の箸を養えず 人妻の海中の石見えながら 枯葦に火をつけに行く赤い服 腸詰が繋がっている母子家庭 七月の蜂起の空となりにけり 大声で叱ればとんで出た訛り 道修町の恋は薬の香にむせび 週休二日むなしい天井板のしみ わたくしの顔とり戻した仕舞い風呂 悪者になる母ソートいたわりぬ 白い指ささやく嘘と知りつつも 明日すてる子猫がめしを食べのこし 来客に行儀悪さを詫びて夏 六十の影がつかれてついてくる 燕飛ぶウルトラCにひるがえり 遠いひと想うスズラン灯が点き 水中花美女に生まれし得失や 小走りの背なが哀しい宮仕え の歩道に小さな美談が落ちてい つからか宝石音痴に馴らされる 大阪市 桜井市 大阪市 市 た 藤 橘 井 本 雀踊 薫 一三夫

風

子

Д	मा जिल्	ポルノ映画観るのに帽子出してくる 六十の手習いさせる送り仮名 高品のようには見切れぬ娘の縁談	母の慈悲ときにうるさし有難し 女子寮の夜中洗濯機が廻り 宝塚市 傍 島 静	待呆けと待ち呆け意識して離れ 今の拍手は明治生まれだとわかり お先にと云うたが辻でまたしゃべり お先にと云うたが辻でまたしゃべり
沖連つ好 縄ののバ嫌	茶 温 自 冷 え	<ul><li>田山 会津若松にて</li><li>日かった日本日のようなのがあるのがあるのじゃまをする。</li><li>日がンに替えてお見合ホットする。</li></ul>	馬 大橋を静かに見てる文学碑 大橋を静かに見てる文学碑 岸和田市	新緑の雨情夜の酒ひとり 新緑の雨情夜の酒ひとり 地山 城 松山 城
中川		河る村	高橋	尼
晃		В	操	緑之助
男		満	子	助

こう走るんやいうてて顎出してはる幸福の分析をして行詰り	ななんでもかんで	豊市 戸 田 古 方	迎え傘テレ息さそうに虹を指し	また雨の予報たらい受けて待ち	正直に言えば裏方角生やし	先様は歩まで金の役果たし	姫路市 隠 岐 不 酔	過去踏んまえて城厳然と聳え立ち	酔たくて盃次々さして行き	藤柵の花ふくいくと応接間	歩いて出勤今日はアジサイ咲いていた	岩国市 弘 津 柳 慶	ゆううつをまぎらすための石を蹴る	みどり縫う樹々にぽったり朝の露	知恵しぼる頭の中にある空洞	信仰の熱意奇蹟を与えられ	松江市 岡 崎 祥 月	松葉杖つく少年へ虹の橋	骨抜にされた男の預金帳	職責に馴れすぎている盲判	杖ついてくる母さんを待つ微笑	倉敷市 小 幡 里 風
サングラスかけると女強くなり末席で自己満足を持ち帰り		なぜこうも納得出来ぬこと多き	一言を押えた仲のよい夫婦	淋さは舌にころがすウイスキー	勝馬は今の騒ぎが腑に落ちず	大阪市 福 井 野迷路	くもの巣のようなシグナルとぼとぼ五十年	薄暗い照明に理性も眠らされ	その素直さョガの四訓を信じこみ	弱さをのり越える為のホラを吹き	大阪市 天 正 千 梢	目が覚めて今日まだわたしは生きている	応接室さつきの鉢に乗っ取られ	盆栽化されてさつきにある不服	花咲かば告げんと言いしさつき咲く	大阪市 西 出 一 栄	名舞台鏡花の筆も名残りかな	名優大矢市次郎を悼む	バッグがあるので女の子らし	気が向いたのかネクタイを賞め	いざなぎの遠きむかしのパンタロン	名古屋市 吉 田 水 車

野に咲いて幽雅な香り失なわず都合のよい解釈をして腹を立て古本屋本に惚れ過ぎ売りそこね愛情の化身をパパは撮りつづけ受情の化身をパパは撮りつづけ大阪市大阪市	陣の風が緑をと出るつみない。	日曜日も働く職へ来て呉れず団らんの夜も救急車が走り 近所皆敵にまわしてよく稼ぎ京都市	別れてよかったと強いことを云いて行車の話題途切れて寝るとするの話題途切れて寝るとするとする。	週末の土産は洗濯ものばかり 兵庫県
宮	金	松	横	大
尾	井	Ш	Щ	江
あい	文	杜	_	秋
8	秋	的	声	月
対して 対象性を急にしだした子を案じ 対象性を急にしだした子を案じ 対象性を急にしだした子を案じ	要や子と遠くにおって酒がいり 駅長の日焼けをみんなけむたがり 転長の日焼けをみんなけむたがり	要するに金が無いので泣寝入り 法律に頼るとしても金が要り 法律に頼るとしても金が要り	光代が残して呉れた風致地区 生代が残して呉れた風致地区 生代が残して呉れた風致地区 まの手をはなれ園児仲が良い	にみ上げる笑いあの息子がパパになる 家安産背をなでてやる間も無くて
田		Ш	山	弘
実	1.5	/m	Nds.	水
	いわ	侃 流	遠	半 休

兄ちゃんと呼んでひそかにひそむ恋 美辞麗句背筋つめたい別れ 仲直りしてから恐さあった妻 捨てる欲山へ来てから教えられ 大切にするから山は怒らない お互いにもうひと声の妥協点 ほめじょうずどうしたことかおこらせる F 中 生きている魅力を山に教えられ 下心あるなと初手から見抜かれる 雲水のすき腹叩く昼太鼓 橋までを送ってくれそなししも居ず 無力型人スマートと云うてくれ 盛装の妻を見直す久しぶり 教育ママ九〇点をまだ賞めず れ凧の如去った夫だが日々想う までみな学校へ持ち込まれ ック出て当分持ちますお墨付 山中温泉にて の宿題夫婦で考える 富田林市 西宮市 大阪市 神戸市 藤 板 加 仲 村 尾 井 どんたく 岳 庸 X 女 佑 自己を知るそんなそんなむつかしい やっぱり女はんだした結婚しやはった 孤独ではなかったくさす人が居る 回転のにぶさを歳の故にする 弁解ととられて困る弁解さ 永遠に句碑輝けり日の御碕 敬遠でうまく急場を外らしとき 嘘と世辞混ぜてきたない手を仕え 見込まれた鞭は骨までしびれさす プライドは昔のままの灯を消さず 日曜日ペンより重いものを持ち 出雲からおこしでっかと見すかされ 噛んでふくめてなお足らざるか母者人 観光ブーム萩の寺とも紅葉とも たくらみの中に燃えてる酒の色 たった一言へつながる眼の動き 妻がいなければわたしは敗北者 君のその出方疑えたくもなし びんつけの香いがしみた母の櫛 呼吸おく合槌の頼りなさ 青森市 倉敷市 大阪市 大田市 松江市 神 藤 吉 織 谷 谷 井 田  $\mathbb{H}$ 凡 可津 逓

水

春

児

九郎

余生また楽し女友達居てくれて 無口でも仕事となれば負けていず 無口でも仕事となれば負けていず を椅子をねじって対す老樹かな たこ焼の足つまみだす皺の手で たこ焼の足つまみだすしい。 単丹市 小 川	腹芸はだまって味方からだまし を担けばいとしい声がする 大阪市 水 谷 大阪市 水 谷	た。 大唱婦随ああ退屈の裏返し 大唱婦随ああ退屈の裏返し を、屋根、雲、唯ひたすらの酷暑 息づくもの夢あるものよ草の芽よ 倉敷市 藤 井	原始人の生活羨やむような日々
静	竹	春	
観堂	荘	日	衛 与 呂志
歴史とは哀しきものを積み重ね 歴史とは哀しきものを積み重ね 歴史とは哀しきるを 藤井寺市 はくってそして哀しき雨青葉 はくってそして哀しき雨青葉	砂丘の雨なんぼ降っても消えてゆく が丘の雨なんぼ降っても消えてゆく が丘の雨なんぼ降っても消えてゆく	時口市 でいと来ぬお話耳輪がゆれている である。 でのない旅してみたし紙風船 あるのない旅してみたし紙風船 のはいないないないでしている。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 であ	琉球歌劇「奥山の牡丹」 蛇皮線の尻下りで奥山の牡丹 宮書をしてみたいほど空が澄み 高更でないのにどちらも湿ったマッ 満更でないのにどちらも湿ったマッ 満更でないのにどちらも湿ったマッ
	奥	村川	チれ光
	谷	田 端	好
美	弘	瓢柳	陽

太

子

子

朗

房

満満とダムは人智の美を堪え 格調の高さを青年観て呉れず 押し通すコツを覚えて寡婦は生き 出来不出来不出来の方が手に入り 伝統を重く視るから保守にされ 付けまつげ目はぱっちりと低い鼻 各停が律気にとまり故郷は過疎 ウインド 聖書忘れられて退院近くなり 医者かえてかえて医学にます不安 札びらを切って劣等感を忘れ 手から餌を食べる鯉には名を与え カタログの半値で買うた馬鹿らしさ 毒舌を売物にして焼鳥や ひょっこりと来て食うて飲んで借りて行き 盗まれた靴より高そな下駄を借り 差引けばまあトントン生きてます ここはまだ自然へ人がすがりつき 石橋を叩けど妻が渡らせず 美作の旅二句 ウの0の数だけみて帰る 姫路市 小松市 京都市 美弥市 馬 村 中 都 Ŀ 場 111 魚 沙 求 弘 春 芽 E 雀 山 道 廊下へ出てからも一度急所ついてみる 健全な常識を法律が破り 大和路に古稀には見えぬ師の歩巾 酔うほどに未練がましい人と知り この汗へ悔なしヘルメットをはずす よそ様へ回す包装紙が破 生と死をさまよう夫の瞳ゆれ 待つことに馴れて悔のない男 鉄骨は錆るままドル・ショックの日から 父の日のビールはほどよく冷えてい ほめられて年甲斐もなくひっかかり 大阪の暑さをがまんする儲け 厳粛な事実よ黒枠の夫と居る つかれるよつかれるよ腰撫でやめよ 佗之寺数珠持つ人が見当らず おくやみが上手に言えるのも齢か 新築へお城の見える窓をとり 何故先にひとりで行くのョとすがりつき 一筋に生きて孤高の名を貰い れ 鹿児島市 松江市 兵庫県 倉敷市 3 本 土: 城 林 田 Ш 岐 修 1 八笑人 ク子

住

史

松江市	潔く別れた方が振返り	出る月を待つべし破産宣告され	来年は善処政治屋又にげる	親切に背負われ顎で指図する	岡山県山	きつい陽へきつくカンナの朱をかえす	腹わたの底まであばく断面図	体当りでここまで描いた抛物線	誕生日きっちり覚えている愛か	島根県	それもよし悔いの涙が出ぬのなら	胎内で苦労をかけた臍黙し	正直の花が実らず散る世相	ネオン歩道に映えて雨の御堂筋	大阪市	つけまつ毛玉砕をする気の涙	見合する豊かな胸に賭けてみる	御詠歌の音痴有難度いハーモニー	生きている証拠に財布が軽くなり	和歌山市 野	カリカリと私を噛んでいる八重歯	野次馬として三面記事の隅を読む	縮まらぬ妻との距離の膳に向く	筮竹にある夜のわれを失なえり
恒					出	-				小					西					199				
松					原					砂					Ш					村				
吅.					敬					白					誓					太茂				
紅.					_					汀					=					津				
生駒市	ほっといて見よう息子は嘘が下手	出稼ぎのペンは祭りの灯を嫌い	蟹よ爪上げよブルドーザーに向え	祝電も嬉しい五七五が続き	新宮市	外国が休め休めと云うてくれ	思い切りしかってすっきりさせた少	その時は何でもなかった怒り出る	失意のある日聖書をひもときぬ	倉敷市	酒の味知って女にあるみだら	日溜りに寝そべり女患の便り読む	定退を任地でおしみ名誉職	社の赤字指名入札取り消され	鳥取県	受付は待たせソロバンはじきだし	改札を出てから切符出る不思議	親類の農家でうまい飯を食い	黄色人種は強いとニクソンの肚の中	鳥取県	激論も酒のせいだと知りながら	真正直すぎて上司に煙たがれ	年寄りの依固地そろそろ俺も似る	お説教聞かせる方が汗をふき
生駒市 草	っといて見よう息子は嘘が	ぎのペンは祭りの灯を嫌	爪上げよブルドーザーに	電も嬉しい五七五が続	新宮市 大	国が	い切りしかってす	時は何でもなかった怒り出	意のある日	敷	の味知って女にあるみ	溜りに寝そべり女患の便り読	を任地でおしみ名	の赤字指名入札取り消	鳥取県 谷	は待たせソロバンは	を出てから切符出	の農家でうまい飯を食	色人種は強いとニクソンの肚	鳥取県 森	論も酒のせいだと知りな	直すぎて上司に煙たが	寄りの依固地そろそろ俺も似	説教聞かせる方が汗をふ
	っといて見よう息子は嘘が	ぎのペンは祭りの灯を嫌	爪上げよブルドーザーに	電も嬉しい五七五が続		国が	い切りしかってすっ	時は何でもなかった怒り出	意のある日	敷市	の味知って女にあるみ	溜りに寝そべり女患の便り読	を任地でおしみ名	の赤字指名入札取り消		は待たせソロバンは	を出てから切符出	の農家でうまい飯を食	色人種は強いとニクソンの肚の	県	論も酒のせいだと知りな	直すぎて上司に煙たが	寄りの依固地そろそろ俺も似	説教聞かせる方が汗をふ
草	っといて見よう息子は嘘が	ぎのペンは祭りの灯を嫌	爪上げよブルドーザーに	電も嬉しい五七五が続	大	国が	い切りしかってすっ	時は何でもなかった怒り出	意のある日	敷市竹	の味知って女にあるみ	溜りに寝そべり女患の便り読	を任地でおしみ名	の赤字指名入札取り消		は待たせソロバンは	を出てから切符出	の農家でうまい飯を食	色人種は強いとニクソンの肚の	県森	論も酒のせいだと知りな	直すぎて上司に煙たが	寄りの依固地そろそろ俺も似	説教聞かせる方が汗をふ

の味噌こんにゃくが善男の味噌こんにゃくが善男の味噌こんにゃくが善男のだおあるのに預るだけとの方があるのに預るだけとの方があるのに預るだけとの方があるのに預るだけというがあるのに預るだけというがあるのに	老妻があやつるピエロ歌かつぐ と妻があやつるピエロ歌かつぐ 鳥取県 鈴亀が勝つものとおかしな信じよう 亀が勝つものとおかしな信じよう	出示が行利得氏他界の能さため息にもならずの能さため息にもならずの能さためまいるならずのでと出番の雨が降り	<ul><li>エロック</li><li>「本のでは、</li><li>「本のでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「ないでは、</li><li>」」</li><li>「な</li></ul>
本	木		家
忠	村 諷 子	独	代仕男
である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	蝶々のつかれ地蔵の肩を 四十の坂がはじまる誕生 イヤリング耳に重たいま つまずいた足からくるう	本軍派程ではないが子が背き か事派程ではないが子が背き が事派程ではないが子が背き が事派程ではないが子が背き	新緑の山を撫でてるちぎれ雲 と位置で今日も感謝のビール抜く を位置で今日も感謝のビール抜く を位置で今日も感謝のビール抜く
并	Ш	橋 上	谷
菁	次	鬼   旭	徹
5.55 <del>5</del> 55	TOTAL SE	15.776	.5007421

焼

童

舟

聋.

居

新築が自慢の解る客を待つ 変身と言う片言に眼を細め 釣上げて尾ひれの形確める 異 市舞台暗転静かに主役待ちわびる 長い方へ易が当ったらから慌て しまったりが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かん	大の日に子に便乗のプレゼント 異性の匂い失せてる父と腕を組む と 大の日に子に便乗のプレゼント 変の日に子に便乗のプレゼント で かいがっかい こりの しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう はんしゅう はんしゅん はんしゅう はんしゅん はんしゅん はんしゅん はんしゅん はんしゅん はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんし	かたくなに母を拒みて日記閉ずかたくなに母を拒みて日記閉ず冷酷に求める母の理想像	本の石段籠に不の石段籠に	にして長男
槙	古	河	1/7	竹
田	岡	野	出	中
英	青	君	智	綾
詩	香	子	子	女
ではかどちらも付けて新世帯 で畑の隅で妬心を消している 変名にされて手ぶらで来たを悔い 暖のある人に頼んではかどらず 鳥取県 川 うらのうら抜けて来た道振り返り 戦傷の腰のしびれよ梅雨に入る	新宮市 川 一 一 一 「 一 「 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	万一にそなえても揺れる歳になり 病気してお膳立てまで無慈悲なり 諦めた決意積乱雲を抜ける	及情を賭けた鉄拳とは知らず 支情を賭けた鉄拳とは知らず を繋の未練へ母の愚痴が責め でである。 では知らず	謝ればすむ気後悔しておらず
崎	上	J1[	田	下
秋	久	八	悦	梁
女	司	郎	郎	水

除洲除洲が出た父の酒	ペラペラペラペラ酒と云う潤滑油	ねこかぶり僧らしくもあり可愛くもあり男性がつくる美しい女性	ーパンも腰で男女の区別者のつもりらしタレント		同窓会敬老会ですかとも言われ地球儀に日本の位置を確かめる週休二日程遠い職に生き	原はよし天使に似たるバスガイド 御存知汚職日本のお役人	のかたみ袖	千日ビル火災近所の人死すずのびせず牛の歩みに似し息子へしぶりカフスを止めにより添うてもう一度燃えてみたいな五十坂	秘密などもてぬふたりの笑い声
	藤		楽	西		田	田		見
	三		鹤	章		季	丁		茂
	三十四		丸	雅		賛	路		美
宍道湖の輝く夕陽夢に見る	減反へ百合を咲かせて香にむせるモニターに明治の知恵も少し借り	腹へ、た何かほしいと云うでほし	夏へっこ何っましょ こまうごま 人院へ手持ぶさたなかんぽう薬 夫 入 院	革命の機電柱に五月雨堺市高	も足もあらわに女挑む夏主にも別の貌あり人なれば	大阪市で、大阪市で、大阪市で、大阪市で、大阪市で、大阪市で、大阪市で、大阪市で、	ノ大多化ーをクラ	3二人が条件つきのカートテルサービスは値上げしたほどしてくれずおもわくがある盃を差して来る原中である。	三代目の血喧嘩の孫へ苦情が来野次馬のもすこし焼けてほしい顔
		中島		商橋		ik H	汲め辺	田	
		<b>与</b>		千		· 子	菩	明	
		子		-万子	2	.i	句	春	
		,		,				11	

病室のしじま秒針つきささる 吾子見舞う頭撫ずのみ太き指 病児看護のため川柳とも別れるの記 西宮市 础 野 5. 志 馬子唄は連れが歌うてゆく木曽 元 品から都 0 はす 妻籠 会の N 0 宿 顔 は 0 0 to 妻 中を歩るく都会人 " 龍 1 宿 25 き

くいしばる力及ばず総入歯

名句でもない短柵を貰う義 理

で恵架の栄をと句

集

むなしき詩

醜くさやうじ虫どもが権力 保元平治の頃もかくやと総裁 、間を忘れたリベ ラルこれが 戦 詩 か

北 111 春

長髪は

個性殺

K

0

ふるさとは過

疎 L

墓地 た顔

なり

バメラマン

カメラ重うなり だけが過密

巣

今日

何度言葉に

監査役眼鏡掛け

たりはずしたり

若

本

金に ぞクラクシ

路

叱られに にならぬ 行く足もとと知らぬ犬 話金持ちし ョンの音霧の たがらず 木曽

菊

沢

松園

年上の女で喧嘩派手になり と牝静かな檻になってくる 出たく過去に触れさせず

扇

目

川 村 好

郎

出たかありがとう

もくれ たことなし釣自慢

想い

今晩もちくまで飲もうか 松江梅里五年祭 出のひとの噂を遠く聞 な

教育産業などと資本家儲ける気

西

尾

栞

梅 里 三角な土

地三角な家が建 老いたか

皆様に心からお見 申 げ 舞い す

菊川若西北中

JII

ゲ

リラ豪雨

禍各地

0

生

尾

園郎志栞巣庵

本

村

沢

1/4

JI 塔 任理事 社参事

句理 会 部部 同同同同同

# 析物篇研究

岡

峆

重

義

高故 JII

須

啞

味 府

前

田

喜

代 人

端

柳

風

井

岡 丸

田

650 よねまんじゅ初手一トロハあ んがなし

ねまんじ

う」の意との

山東京伝)では否定して、普通の饅頭は表している。江戸初期から浅草聖天町鶴屋から売り出して有名だった。アンは黒砂糖を小さくまるめていたので、一口かじったぐらいでは目にとまらず、二口、三口食わねばならなかっただろう。 横二鶴屋よねまんじゅう及び川崎の同名の横面については「川柳江戸名物」にも記されているが、詳しくいる。 う女がつくりはじめたからという俗説も ったらしいが まんじゅ」は、米「よね」と 「骨董集」 (文化十一年、 る。 尖っていたので、この両端にはアンがな 丸=米饅頭は高須説のように円くて両端がか? から「初手一口はあんがない」ことにない。食べるのはふつう端の方からであろう ないことを「初会ではアンまで食えぬ」のる。それで最初の一口ではアンまでとどか

651 判取ハ 岡田 | 賛。

ただそれだけのことであろう。

ハ居る所迄返事する

で、丁稚は返辞をしながら、取鉢に入れたに売上げを記入して「判取」と丁稚を呼んに売上げを記入して「判取」と丁稚を呼ん場の後方に居る丁稚で、越後屋などでは、場の後方に居る丁稚で、越後屋などでは、場の後一判取(はんとり)とは大呉服店の売 代金と売上げ票を帳場へ持って走り、売上 票に判をもらって来る。 (はんとり)とは大呉服店の売 この呼ばれた丁稚

草金竜山の麓で売っていた。

鶴屋と並んで

外皮を米の粉で 皮が厚くて、

まるくて両端がとがっていた。浅皮を米の粉で製し中にアンを包ん

あんが少ないので。

麓屋も有名であり、野郎餅に対して女郎饅

説もあ の返辞は高く長く引っぱった「アーイー」

であ った。

トリー」というと小店員は後で「アイー」「端=賛。呼び方も長く引っぱって「ハンが遠いから返事が高く長い。 もらって手代に戻す。 と判取帳を持って帳場へ走り、判を押して

丸 丸・岡田―諸説に賛。の表現。古川柳に叩頭 高須=中七「居る所まで」 といただいて判とりい 古川柳ならでは 八.32

日本から京の短冊竹がミへ

岡崎=吉原の七夕。日本堤から京町の五色 の短冊をつるした竹が見える。「七夕は土 手から見える紋日なり」(二・13) けの句。

高須=「日本から京が見え」とはうまく言

丸·岡田||諸説賛。 たつもりだろうが、ただそれだけの事。 唐から京が」なら面白いのだが……。

# うつついやつにかねもとが七所

る」ではなかろうか。同情されてかねもと 藤井=賛。但し「うつつい」は「打棄す 漿をもらってつけるという習慣があった。 岡崎=「うつつい」は「美い」で、美しい 一転語。美しい女、初鉄漿には七所から鉄

な? 受け人が七人もあるとかいう句ではないか人もの買い手があったとか、美人女郎に身 いうのは、美人・不美人に関係はないと思所から貰う習慣があったので、この七所と 所といったが、句意は身売りする美人に七 ではないか?だとすると初カネにかけて七 う。この「かねもと」は金元で金主のこと る(口語形容詞とある)。「初カネ」は七 金田一京助監修「明解古語辞典」に出てい 高須=「うつつい」とは「美しい」ことと ||一柳雨翁の風俗志には「かねもと」が「 何か特定の美人はないか?

藤井

--敬服。何だかわからなかった。継

岡田―ウッツイは美人のことは動かせませ 人気役者に出演をぜひ頼むとあちらこちら こともあるまい。 がるのも人情であろうから、そう深くとる るが、美しいものには進んで鉄漿をやりた 鉄漿元」と漢字をあててある。高須説もあ ん。金元は金主のことで芝居用語。 美貌の

みてもわからなかった。

をいった諺があったと思ったが、今調べて

654 うのでしょう。 い娘には鉄漿元になりたがる家が多いといから口がかかることを陰にふまえて、美し

# 梅の継穂とハふてらつこい妾

て膾灸したらしい。 や浄瑠璃ではお家横領の大悪人に脚色され 力争いに破れたにすぎないらしいが、講談 にあてはまる。史実では前田藩重役間の勢はわが子利和を世継ぎにしようとした陰謀 妾」とは大槻伝蔵と結んだ真如院お貞の方 事件いわゆる加賀騒動で、「ふてらつてい のお家騒動とみる。それを延喜年間の大槻 合わせから、梅鉢を家紋とした加賀前田家 大胆なという意。梅とその継穂と妾のとり (前田吉徳の側室) であり、「梅の継穂」 "= 「ふてらつとい」はふてぶてしい、

が、このリズムが如何にもギコチなくて頂 が、 丸一礎稿替。 掛けてはいまいと思うのだが……? けぬ。まさかこの継穂を、 立てようとしたお貞の方に相違ないと思う 枝や芽のことで、 とまごつかす。「つぎほ」とは継ぎ木する 高須=「ふてらつこい」は古語辞典にある が妾とは。 「梅の継穂」が無理な言葉で、 「梅の継穂」は不可能なこと 自分の子を主人の子に仕 義枝から義子に ちょっ

21

### 川柳と将軍と兵

終戦つ子が平和な日本に育つて27歳になつている。静観 堂氏や野迷路氏はM27年の日清戦争、M37年の日露戦争、 T3年の第一次大戦、S16年の太平洋戦争と生き抜いてこ

三氏にご執筆ねがつたが、さすがに川柳人である。そこ にはみじんも暗さがない。



緒戦の 波終戦の原

が命中することが至上命令であって巨弾程よる。海戦は砲弾で舟を沈める競争である、弾さて、第一の電波探知器即ち電波兵器であ ない、これを命中するには視力の競争で、平い。陸軍のような指の先きのようなものでは 弾、これに対し少しでも大きい艦を必要とす なければならぬ、それには少しでも大きい の距離を電波反射で計測する方法が発見され 素から動いてる標的船に命中させる演習をせ これに対し視力はあてにならぬとて艦体と

折れるが、ぼけた脳細胞から絞り出して見たそこで昔の海軍のことを書くのは少々骨が 入りよく覚えてるが、だんだん年と共にぼけい、さて老人は幼い時の記憶は微に入り細に けは「オギャー」から棺桶まで一度も代らな が古いのと交代する)しているが脳の細胞だ 句であります。 い。題して夢の又夢どこかで聞いたような文 の体の細胞はみな新陳代謝

か」である、決論から先きに川柳で表現 · でうら、央倫から先きに川柳で表現すれお話し申す内容は「帝国海軍はなぜ敗けたてあり」で、 10

の電波探知器の発見までは各国共に大艦巨砲 きに弾が来また暗夜にも着実に弾が来る、こ 確に数値が出る。艦隊と艦隊との遭遇戦で先 れば水平線の彼方でも雨天でも暗夜にでも正 系科学者によって開発されていた。これがあ って、丁度戦争開始以前にアングロサクソン であったがここに左の川柳が生まれ 練習よりも電波反射の方が正確 野迷路 唯であ た

艦に巨砲長城にピラミッド

来わが国も学者を動員して電波探知器を作っッドとまでは行かぬが価値が下って来た。以 盗まれたあとだった。 たが泥棒に縄が遅すぎた。 砲は商来万里の長城やエジプト砂漠のピラミ に顕れ大空母団をせん滅したので、大艦や巨 きに進発せしめこちらが機を取出す前に上空 ミッドウエーの空母艦隊の遭遇戦 が五分間先きにキャッチして爆撃機を先 というより宝物を の大敗は

島上空に落され 云い昔の大砲なみに扱われているが始めて広 次は原爆である。今では原爆と云い水爆と た時は幼稚園の生徒が軍艦の 十五インチ砲射撃

歩いていた。 呉海軍病院の庭を 鎮守府軍医長で、 であった。 上空に雲が巻き上 朝の八時頃起きて 度その時分には呉 なびっくりの仕方 を始めて見たよう 私は丁

> 和せぬ 器を用いた上は呉軍港を傷めずに終戦後軍港たか、米国には二つの意図があった。終戦兵 という次第でこの二回だけは参謀本部や軍 という次第でこの二回だけは参謀本部や軍令長崎上空に落した。途端にシャッポを脱いだ に違いない、早く講和を始めねばと云う気に く講和せぬと今度は名古屋か静岡がやられる として用いること、広島市を破壊した上は早 と物凄い音と共に砂じんが巻き上がった。こ げたようなのを見て、何だろうと考えている 部の科学の貧困によったものであった。 させる目的だったが貧すれば鈍するで仲々講 れを広島に落とさず呉軍港に何故落さなか (降参せぬ) そこでこんどは第二弾を

(元海軍軍医中将)

省へ戦地部隊長転出を願い出たところ、折り は頑健、子供なし、後顧の憂なし。よっしゃ万歳々々と叫びながら癌で亡くなった。女房 返えし電報でベトナム・ 往ってやろうと決心し、誰れにも秘密で陸軍 た。 だった。支那と太平洋とで大いに勝手が違う の大詔喚発。当時、 私の母は香港占領、シンガポ 和十六年十二月、我海軍真珠湾攻擊、 私は姫路師団軍医部長 サイゴン陸軍 ール陥落、 病院 宣

内 心の喜びを隠して病院船に便乗させて貰

い字品を出航す。 昭和十七 年秋のことだっ

さんを大切にしてあげて下さい」と書いてあられた。これを大切にしてあげて下さい」と書いてお前始め皆さんに希望をかくして出征した。悪前始め皆さんに希望をかくして出征した。悪半年ばかり経って女房への通信に「実はお んなどとは書いてなかった。 ったが、飲み過ぎるなとか、浮気はいけませ

イカンドウ」と読むべく父から仕込まれ 戴したが、私は三歳の頃からこの扁額を「セ た。そして閣下直筆の「静観堂」 唯一の私立医学校済生学舎に学び医者になっ 松本順閣下のお邸の書生を勤めながら、 京し、陸軍省初代医務局長、軍医総監、 歳。私の父は郷里伊予大洲から笈を負うて上私は明治二十一年八月十九日生れの八十四 に転出。その地で敗戦を喰った。 一寸珍らしい雅号ぶっちゃけばなしだとお 翌十八年九月ジャワ、スラバヤ陸軍 詳細後述。 の扁額を頂 病 当時 男爵 院長 た。

られた。ここが初恋且つ失恋第一号発生の地軍三等軍医に任じ、南九州の某連隊附に補せど、明治天皇いまだ御在世の四十五年六月陸ら軍医なんかに成るの はよ せと言われたけ 世界大戦勃発。独立工兵大隊編成下令。 だけれど委細は省略す。 大の前身)入学四十四年十月卒業。某教授か明治三十九年四月大阪府立高等医学校(阪 大正二年熊本砲兵隊に転ず。翌三年第 治三十九年四月大阪府立高等医学校 編成 ---次

表に無かった私が同大隊の次級軍医として

れの 日独 た。 に上ったが、この 島要塞攻略の征途 た。 ゾと叫んで勇躍青 級金鵄勲章、 級金鵄勲章、勲 一死報国 K 加 5 やる

Ŧi.

初陣であっ独戦争が私の晴

層を経るのだから、一カ月くらいはかかる。 んだ。何んしろ憲兵が委しく調べ上げて各階 り」ポーンと大きな太鼓判を貰わねばならな 仲代達也よりもっと険わしいギョロリで「ウ たこともなければ写真を見たこともない。ま の結婚には陸軍大臣へまで願い出で「願之通 へむけてしまわれた。「小川!帰エリマス」。 ン」と言ったきり、 電報の御礼やらを申上げたところ、 局長に凱旋の報告やら、 たてられ 軍から嫁をきめたから帰って来いだ。会う 大正五年冬結婚す。その頃陸軍の現役将校 たものだ。上京の折り、森鷗外医務 全国 の新聞には勇敢なる軍医と書き 廻転椅子をくるりと後ろ 負傷した時の見舞の 六等単光旭日章を 平清盛の

ことにして郷里に別れを告げた。 汽船の中では特に礼儀を正しくした。 役軍人には新婚旅行なんてものはな 42 能 0

講座に例句として載せて下さったが何しろ初皿を戴いた。その時の拙句は路郎師の新川柳

省し式を挙げた。写真は熊本へ帰

って撮る

ないが初めてにしてはよろし、

て下さいとおだてられ、「俺に

似よ」の銘 ウンと勉強し

K

郵便貯金から一円のこし九円引き出して

性質の上に女房を欲しい頃でもあるの

るで上官の命令だ。私は親の言うことは何で

た。 行き、着物ふわり、 したものである。某日曜日に写真屋へ一緒に除隊後は牛太郎をやめる約束で看護卒に採用隊前の職業は東京吉原遊廓の牛太郎で、満期 然しシャツを脱がせると倶利迦羅紋々だ。 して待っていた。この兵隊は私 きそう除をすませ、 色の白い好男子、言語明晰、 いた家へ 帯しゅっとや 飯をたきすき焼 ると上等看 0 動 って呉れ 作敏 秘 の準備 護卒 蔵 かっ子 入 を

出掛 地を転々と南船北馬であった。 満洲事変、支那事変、ノモンハン事件等で外 その後私は満洲、北鮮守備、シベリア事変、 と言うても部隊へ帰って戴きますであった。 夕食はすき焼にきめていた)を一緒にしよう その後時 ける時は留守番を頼 々日 曜に買物 やら活 み、夕食 動写真を観 (日曜日 0 12

「いっそちぎろうかシャツのぶらぶら釦」
バ氏ともそこで親しくして戴いた。そこへ路
がった。そして私の脐の緒切って初めての句かった。そして私の脐の緒切って初めてお目にかかった。そして私の脐の緒切って初めてお目にかがった。また川柳の手ほどきを受けた。東野大 下の柳人岩崎柳路(故人)氏が酒場を開 としておったことがある。その地には路郎門 と私の顔とを見比らべながら大したものじゃ 支那事変中、蒙古の張家口に、 軍 一病院 いて 長

> である。 のだけに嬉しくて忘れることが 角 では H ジ両 衝

敗戦 そこへ路郎先生がまた現われて、川 敗色が濃くなったので、新し所謂ノモンハン事件となり、一 もの御馳走であった。 戦況だったのでロクなおもてなしもできず、 えての慰問をして下さった。何にしろ大変な 百名の後送傷病者の収療に不眠不休だった。 同地第一、第二陸軍病院長として毎日三、四 章を着け、飛行機で北満ハイラルへ飛んだ。 の後方勤務を観察して貰ったのがせめて い軍医大佐の肩 カミ 柳をまじ 本軍 0

級酒を大変よろこばれた。 戦争の話、 友に会うたような嬉しさが胸にこみ上げた。 訪を受け戦地でともに生死の境をさ迷うた戦 の草創時代にヒョッコリまたまた先生の御来 大東亜戦争で敗戦後伊丹で開 川柳の話やらで伊丹の銘酒但し二 業し たが

ハア、ぶらぶら釦」ですかと言われて頭を掻ず、留年の恰好だったと申上げたところ「ハ った御恩は いた。それでも私を川柳の世界へ導いて下さ 戦争中は川柳の参考書が無くて 生忘れられ 82 今や先生は雲の 勉強ができ

くなって、重症ではあるが治療が行き届 は兵器弾薬類の無い無い尽し、 島周囲の大小の島々から傷病兵の後送が烈し 大東亜戦争はいよいよ大詰に来た。 収容と同時にガックリ死んだ者も多数あって、重症ではある が治 療が行き届か 可哀想で耐らなかった。ジャワ島の軍 病院だけ + 隊 7

慰安婦 婦へ形見分けとした短刀をもってする自決訓 私が刑務所へ赴むいて製作を頼み、 ては英軍の上陸予想地点における防禦演習、 せて大変な人員になった。終りの時期におい 補も多数徴用したので千数百名の傷病者と併 徴用した。これらの外にインドネシア人の兵 赤派遣看護婦の外の女性即ち婦人商社員、 (?) 等に専念したが遂に八月十五日の敗 、装という恰好だ。隊員 (仲居、酌婦達) も臨時看護婦とし 戦闘 日赤看護 要 員

が、最悪の場合には皆んなやられますぜと副は剣付鉄砲で殺されるだろうところまで来た た。何で昨日まで友軍だった者から武装解除銃に包囲され、院長は剣付鉄砲で取り巻かれ装解除を申し出た。すでに病院は機関銃と小 から私は御成功を祈ると言うて堅く握手を交 行くと言い、ニッコリしながら握手を求めた 情を聞かされ遂に解除を諾した。そして一面官に耳打ちされ、またインドネシア独立の実 ルを握りしめ、あわや隊長を撃ち殺し、自分 されるのか解らないが覚悟を決めた。ピスト ドネシア軍隊約一小隊がやって来て病院 る女房の 二、三日経ってから、 した。ピストルを握りしめたとき、 ある彼隊長は私のピストルと軍刀を貰って 記臆する。 面影 がチラッと頭をかすめ 独立を宣 言し 内地に たイン の武

買うて待っていたのがおジャンとなった。十 元気をつけてやろうとおもい、 八月十九日は 私の 誕生 出日で、 スッポン六疋 将校を招いて

> ああ、八月十五日。 焼糞で飲んだ。オイオイ泣き出す者もい のため泊り込んでいた。それで彼等と一緒に 日から下士官兵五名が私の宿舎へ私の護

る。 人の末席で人間陶冶の 詩に 苛 まれ喘いでい は息子に医院を譲り隠居の身の上。 謂牢名主)の後、 私はそれから十カ月計りの刑務所 ゲンコツで泣いたあの日がめぐり来る IB 敗戦の大罪いまだに俺を責 勲章箱のナフタリン袋だけ 牛太郎なんかもうやめたろう喜 矢絣の薙刀かまえたような妻 坊主襟明治の母の気に入らず 駄句数句並べて悪文を終る。 ずらり花の便りは姥ざくら 旧部下の日赤看護婦 Н り隠居の身の上。川柳塔同日本へ帰った。そして現在カ月計りの刑務所生活(所 80 寿

いんだろう。駄句も身の内と知れた。

戦となってしまった。

元陸軍軍 医大佐

路郎忌や特級酒の独り言

のテレビについ眼をやったら、思わずギョッこの五月のある朝、時計がわりにつけ放し とどなっている。 となった。 である。瞬間イヤーナ感じと、どことのう ナンノタレベエ、 のとがごっちゃになり、つっ立ったま まぎれ 甲種合格 もなく徴兵 ! 検 查 0 場

号になって司令部付通信隊配属となった。

満点ばかりの答案歴に、中隊から分遣兵第

いたところが熱河省承徳。

思えば一年近いこ

勤務が、

軍隊経験中の最高の場所とな

まさに羽花登仙の天国であっ

げで手前ミソながらこの方は中隊随

一。連続

くてこれではならじと学科に熱中した。おかわかると的の前へ出てタバコを喫う始末。か

わかると的の前へ出てタバコを喫う始末。

遠万里 だが、 (ああ、 ネクタイがキザなばかりか丙種 木 ーと故 のカスミの奥の奥のものであった。 この想いとその現実は、遠い遠い雲 おれも甲種合格だったんだなあ れぬ溜息をつい

たまのどこかがぐいとつかまえ切って離さな 二句のシッポの「なり」がキツイだけに、ど キリと鼻先にきた。勿論よみ人知らず。この 往時、 甲種合格その記念日は年増 頭にしたこの二句だけがヤケにハッ なり

科はからっきしダメ。早馳けはビリッケツ。 天市内への外出には、張作霖が爆死したその 営付近が、初年兵当時の演習場で、 私と大陸との因縁はこのことから生じた。 きりダメ。射撃演習には観的手の古兵が私と 行軍は十二キロが限度。 陸橋をくぐっての行き帰りでござんした。 導火線となった柳条溝や、 奉天郊外の東北大学、時に昭和八年十二月、 さて、現役兵の一兵卒となった私だが、 満洲事変が終結して二年目の、この事変の 甲種合格による現役の入営さきは、 鉄棒は尻上りが丸っ 激戦地だった北大 休日の奉

当時の承徳軍司 令部は、戦時待遇 もA級で衣食給与 して、大陸戦線中 して、大陸戦線中 の極楽浄土を想わ がは上から下ま

一選友でまる一手目こ上亭天こ早進しこ弘ならじと小生もハッスルした。の料亭娼家で酒池肉林の態たらく。負けてはの料亭娼家で酒池肉林の態たらくかります。

が、オーである。 もフル に長いのは、そのときの鼻の下 ネティ な上等兵 交換嫌とふざけあい、 スー チャ オー F ン群る胡同 テイイヨ そのときできた句 、ャンマタキタカ**、**カシハのおしのびだからサー 転 、徳電報電話局に入りびたり、そこの兵をいいことに暇さえあれば公用外 でまる一年目に上等兵に昇進した私 ル末摘花流なので割愛する。 ンマタキタカ、 だが、平日はぶらぶら、そこへ粋 二調子イイー私 ヘシケ込む。 気分が出ると朝鮮 カシワナクマテ、 もワンサとある 下の伸度のせい 休日は彼 ビスは倍増。 女ら のス

る。復帰三日目にははや敵襲交戦、追討戦旅清の離宮の都統の面目も か くて 型なしであ熱河省下窪。いにしえの山戒東胡の地で、戦熱河省下窪。いにしえの山戒東胡の地で、戦熱河省下窪。いだしえの山戒東胡の地で、戦力の難らのがある。復帰三日目にははや敵襲交戦、追討戦旅行の、場が、はいことのあとは悪人生はよくできてる、いいことのあとは悪人生はよくできてる、いいことのあとは悪人生はよくできてる、いいことのあとは悪人生はよくできてる、いいことのあとは悪人生はよくできてる。

のあけくれとなった。右手に血刀、左手に手のあけくれとなった。右手に血刀、左手に手

こうして現役二年は一瞬にして終ったが、こうして現役二年は一瞬にして終ったが、マスコミ活動の面で大いにプラスした。加えて予備役陸軍歩兵上等兵たる挙
描動作は、関東軍はじめ各地所在の司令部の高級将校連の心理に好影響を与えたのであろう、殊のほか眼をかけられた。

在時の満洲国は軍部専制で、軍服組のほかでいたものである。ゴーに入ればゴーウョしていたものである。ゴーに入ればゴーに随えで、万事軍隊式要領を本分とした。 板垣征四郎、松井太久郎、山下奉文、佐久木到一の各将官連のお引立てを蒙り、松村秀、谷萩那加雄エトセトラの佐官クラスと酒が、その栄華の夢の馴れが終戦直前の私の悲が、この栄華の夢の馴れが終戦直前の私の悲劇の幕あけとなるのである。

死線にたったものしかわからない

暴挙は一体何事ですか」
「報導班員の記者ともあろうお人が、昨夜

とその一人がキメつけたが、意外とアッサリとその一人がキメつけたが、意外とアッサリとその一人がキメつけたが、意外とアッサリとその一人がキメつけたが、意外とアッサリ

道理で奴等にしてはおとなしかった、といあう三人ともその赤紙の人災であった。あいあう三人ともその赤紙の人災であった。あとの二人は、いずれも中央紙の秀才の若手記者であったが、今想えば気の毒なことをしたものである。二人のうち一人は戦病死した。かくて、身上証に赤マークのついた予備役からダース軍曹顔負けの第一線部隊がットのサンダース軍曹顔負けの第一線部隊がカラティ回しされる破目となった。

島紅石の名吟である。この句こそ、戦型を 一整濠のマクラにちょうどよい煉瓦 畑中大三の戦場吟の秀作である。 一流弾が白くむしった木が揺れる 一チョコーそれが最後の声で消え 平野上等兵の旧作である。ヘタだねえ。 東野上等兵の旧作である。ペタだねえ。 東野上等兵の旧作である。ペタだねえ。

のトビ職の職人はアタマへきてどなり出した難しい字面ばかりならべやがって、と初年兵車、別の務令の初手っぱつの一条である。七年、別の務令の初手っぱつの一条である。七年、小団結ヲ完成スルニアリ」

抽象 岐野 戸市は 間 兵営ハ条文ト 町 宏の 間 的 ノ要素ヲ取 社会デアル、 ニシテ強力ナ圧力ニョ 0 る。 出身地である。一昔前、終戦特集かつて大陸戦線で勇名を馳せた鷹 "真空地帯"の 々に H 軍 まで覚えさせるん 棚ニトリマ リ去ラレ兵隊トナル 将 人間 は 一節であ ハコノナカニ せて カ V リックラレ 4 N る。 一丁四方 だろう? \$ 7 0 4

お身自身へのゴマかしなんですよ。戦といま写経の晩年を送っていますが、こいま写経の晩年を送っていますが、こいま写経の晩年を送っていますが、こといま写経の晩年を送っていますが、これは旧将官としてつぎのことを申上げ私は旧将官としてつぎのことを申上げ 兵卒ですと卑 屈 15 L おた。 0 P

で亡く

0

知

人や

F

0

けかび上ってくる

怖ろし

さ

老境

の身には耐えられるも

0

つにくっきりと浮

です。い れはわが身自身

温 لح き 0 あ る 句 隊長の

風

田古方さんの句集をひらくと、右の句が二見書房発行の「小さな白い本」に自筆今の音あれはわたしのお賽銭足るを知る日向のなかにいるぬくみ足るを知る日向のなかにいるぬくみ日が暮れたらねるんだったね老子さま日が暮れ 二今足日 句が

る戸

「私のすきな句」の項目にである。作者自身、ソフトタッチの哲理をふくんだ句がお好身、ソフトタッチの哲理をふくんだ句がお好まなようである。私の初心時代、川柳雑誌を聞の一の弟子の一人であったわけだ。その頃、私が感銘した句は、 
親切に見える親切より出来ず 
えのすきな句」の項目にである。作者自 
のうろちょろうろちょろ道は近きにありなが

ある古方さんの、これはお人柄だといえる。めように、やはりソフトタッチの哲理をふくのように、やはりソフトタッチの哲理をふくかんまえた石が動いたあわてようら

古方さんには有名な詠史川柳がある。国史、 東洋史、西洋史に及んでいるが、これはあく 東で古方さんのお遊びである。お遊びの中に もあっと思う句がある。 静や静 頼朝の眼と政子の眼 句集のもくろくを見ると、私のすきな句、 の中・いきものたち・白サスペンス・旅・自 然諷詠と続く。

さりげなく花瓶になっている薬缶 定期券会釈をすれば会釈する スリの欲とかわらん欲をもちながら 無量寿には佳句が並んでいる。 引くという手のあることを忘れてた 風車素直な廻りようをする えろまんないうてもろうてほっとする えろまんないうてもろうてほっとする れると説教臭が濃くなる。 の自画像が描いつ風にである。 が描いてある。 挿入されていて楽。この句集には、んの自画像だ。屏

とさまのためにサンパツさせられる がとさまのためにサンパツさせられる 野口のキスは頬べたですまされる 野ひとりこんなにおしめもって来た 孫かとりこんなにおしめもって来た とはできない。万卒霊あり一 でそ字場のので 0 は 最も真実な言葉とし ありま 0 語こそ私 5せんよ の接 て、 L た日 私は今も忘れるこ 本 来るた 0 将 n るるであ 官 0 中

あやまりにくるに女生徒つれがいり追いかけて来てまで女の子のわかれ 世の中・いきものたち・派・自然調泳では、モーニングでとない。属子出してくる空っ風今日は丁稚の誕生日まだのせるつもりか支線まっている女柱のようにおしゃべり近づきぬ女柱のようになしゃべり近づきねながれのようになしゃべり近づきねながれるでもとりぼっちのクリスマスを、もくろくと書き各頁数まで自筆の情快な句集だが、昭和四十七年五月一日川柳塔社発行の奥付けも立派にある。古方さんの場がいまでが聞えて来そうな句集である。 の柳の

27



入口で、生々庵・小石ご夫 妻と開田で夫妻

サンフランシスコ金門公園

に近かった。 なりと見えた老妻と揃うて元のモクアミ。のギャンブルセンター。一時は成績稍々良 かし大変な興味にひかれて室に帰っ 翌日は正午発のウエスタンでサンフランシ たら二時 一々良好

て、再び私達の車で金門橋を渡る。バスでは殺住宅地、古い寺院を見回ってからバスを棄庭園や海岸に出てアシカの群れる 岩礁、高庭園や海岸に出てアシカの群れる 岩礁、高でいる。翌日は眠むたい目をこすり乍ら九時でいる。翌日は眠むたい目をこすり乍ら九時でいる。 来たが、 場に出 を一 可愛らしい芽が出て来た。 レッドウッドの木片を二ドル半出して買 ウッド迄ドライブ。その雄大さには驚いた。 ゆけなかった世界的に有名な大深林境ミュア である。夕方下から見た金門橋も遠く浮かん ルと比べると規模は残念ながらこちらが広大 八〇米のツウィンピークにドライブして夜景 タウンで中華料理の夕食をとった後、 橋下から見物は快適だった。夜間はチャイナ スコまで一 望におさめる。六甲山上から見る百万ド かけ湾内周遊船に乗り込んで金門橋を 大阪に帰って水盤に入れておいたら 時間余り。 早速車を飛ばして波止 これが百万年位す って

12

した。

K

したら馬鹿のように言われるデズニーランド られないであろう。ロサンゼルスに来て見落 東京で食べた鍋やきうどんの味も暫らく忘れ

も定めし安らかに眠れるだろうと羨やましいく、日照りはきびしいが風爽やか。地下の霊

四時発の飛行機でお待ち兼ね 昨日つばめ川柳社の史朗氏

は由来賭ごと勝負ごとというものは好きでも

とうとう見当らず残念だった。私

勝運も薄い方であるが、さすがに天下

て見たが、ご存じの通り夜間は大賑いするラ と約束していたのでホテルに着いてから探し

ガス、

のラスベカスへ。 気さえ起きる。 五日の正午頃であった。とまたとりめエバグリーンの日本人墓地に行ったのが十

ル

ルに行くまでに約一

ある。

今度

のは十時過ぎていた。 の親戚の方を訪ねて敬意を表しておい やら土産品を扱って居られる岡山 その帰途、 るとあの大巨木に成長するというから楽し 翌日ガーデナ市のロー 日本人街の小東 タリー 京でスポー 10 の風 出 庵 た。小氏品が

が迎えて呉れる。ところが一緒に来た築山快って出口に出ると川柳塔社同人の前山北海氏 終ったというので北海氏は大あわて汗だくで夢起氏を、駐車場に行っていた間に見失って 長年住んでいる人でもこうしたことが起こり 探すけれど見当らぬ。それというのも一 ルに現地時間の二時半着。手荷物を受け 五月二二日――時発の日航ジャンボでホ 明日はホノルルである。 空港ビルが増築されたためホノルルに 現地時間の二時半着。手荷物を受けと その位にこの地の繁昌ぶりが伺えられ 週間

の印象をうける。 フランシスコのそれに比べてまた異 ンドヘッドに相対するので、その夜景は 12 ル迄送って頂いたが入浴をすますと、 気持ちで の話川原 で軽食をとりながら北海氏からいろいろ土地 案内して貰って、この地の呼びものショッピ る強風 ングセンターに着いた。 万倍かにした険路の上の古戦場とか。北海氏 りましょうかとのお言葉に甘える ことに 疲れでないなら日も高いから、 屋から東南に当り動物園を隔ててダイヤモ 疲れらしいものを感じる。十九階の私達の 説明してくれる。しかしふき飛ばされそう (伏見宮恩賜記念館)とか日本総領事館等 身軽るになって車は山手の方向に走りや 快夢 ここは世界で二番とか三番とか言われ 柳の話俳句の話など承りゆっくりし のふく所、 無要。 楽しい時間をもてた。 林みたいな所を通ってヌアヌパリに テル迄送って呉れた北海氏 氏 はこんな出来事もあなたの旅 帰途に就き、途中クワキニ病 になりますと後では笑って 源義経のひよどり越えを幾 マーケット 八時近くホテ 2 内の食堂 さすが サン +

会前にというわけでまた北海氏が朝の九時前歓迎句会を開いて頂く日である。一一時の開 史を誇るウイ 三日 東から北へと車は快適そのものである。 火。 ってホテルに見える。 昨日と違 1 社主 今日 った海岸線に沿うて東 催 は で私達夫妻のために 在 布川柳家が古い 恐縮し乍ら 歷

> 大さに驚く。車は漸次 海岸 線 から山林に入な潮吹岩の奇観等々聞きしにまさる雄大さ壮 12 に着いた。 10 昨日の 出る。一 0 海 ヌアヌパリコースを逆に走って 色 鯨 時きっかり会場である都ホテ の群が潮を吹き上げるよう 一なって市

階の日本間は海岸から吹き上げる涼風で



河州・三石・津島・蒼蛇楼・北海・椰子郎・万里歩諸氏列左から鶴田・雪女・カロ女・快夢起氏夫人 後列左か (写真説明) 前列左から 快夢起・生々庵・小石・峯円・中 後列左から

**峯円氏の歓迎の言葉、ハワイタイムス主** 島十吉氏が来賓を代表してご挨拶があり、 介を兼ねて築山快夢起氏が乾盃の音頭、 豪華な日本料理が運ばれ、林蒼 北海氏の主賓及びゲストの紹介。 市街と海上を一 望の 裡におさめ の司会、 筆津

会。 紙上に大記事として載せられ、 竹川河舟、加川カロ女、磯島雪女、築山 だった。参会の方は前記の外に脇本椰子郎、 いとしてあき坊さんがご病気でご欠席は残念 う。予定時間を遥かに 超過し て五時近く散 社万歳三唱となごやかな裡に時間を忘れて終 達夫妻に結構な記念品を渡され、 等にふれて挨拶に代えた。 家である。カメラ記者も見えて翌日タイムス えて頂いたのは特に嬉しかった。 れにハワイ報知の鶴田初子女史が錦上華を添 めに万歳三唱。 氏が謡曲 来のご厚誼を謝し、 に生々庵が指名されるままに立って、 「マイナ娘」という有名なハワイ 大阪でお目にかかった暁舟さんは仕方な 親情がここでもしみじみ知らされた。 「竹生島」を謡った後、 次いで生々庵主唱でウイロー 日本における柳界の消息 磯島三石氏から私 如何にも川 俚謡の作詩 鶴田女史は 111 田中万里歩 柳塔のた 夫人、そ JII

人に 朝も車で 元の日航 々お礼の言葉も出ない。 四日。 贈られてお別れの握手。 機に間に合わせるために北海氏は今 運んで下さる。 日本では二五日である。 浜寺の家に着い 見事なレイを私共四 羽田から 言葉がつまって 伊丹 時半

### 社長室大きな声の出せ 体力のひけめ耳だけさとくなり 青空よ盲導犬になりたくて わりきった方がいいよと風の私語 底の底うごめく愛をふと感じ たちきれる想いならばと草を刈る 逢えるよと言って下さいお月さま すがり合いながらも夫婦もめること 起こされた機嫌のままの箸使い 下駄の心についてこぬリズム 0 と歩が成っ の味もきまって倦怠期 たら 停年制が待ち しご酒 岩国市 阪 堀

井

酉

合

娘とは空がつづいている灯り ほのぼのと無事な二人の電話きく 先様へすまぬ涙はせき止める

お休みなさいあなたも灯り消し

たの

か 野

老人は帰れとネオン輝き 流行に少し おく れ 7 価

江

芳

子

島根県

へ惜しむ余白は の結婚に

水の流

れ

榊

秀

選

子

上

+ 止

本

心を言

いたい

舌を別に持ち

新宮市

溪

水

庵

手のひらを開けると愛が逃げそうな未来図を描く鉛筆が折れていた

長室大きな声の出せぬとこ

太陽にのぞかれまいとするあせり れ以 上積めば崩れる砂の塔

谷

小

子

葉

法師し	去となる恋の哀話を抱いて	この心縛ってほしいルージュひく	信じてた其の手は今も温たかい	東大阪市藤	恋してる指かネ蟻をまた潰し	旅ひとり胸に降り積む霧の音	あじさいの多彩仮面を捨てようか	父と子の童話掌にあり蛍籠	竹原市 三	あじさいの心変りを責めたとて	月見草月様雨がと言いたそう	良し悪しは別さ鏡とにらめって	ない頭ふればコロコロ鳴りそうで	竹原市 生	さわやかな一日にしよう花を活け	掌の固さよ残るものがなし	くるみ割るすべを信濃へ来て覚え	もの言わぬ夜なり夫婦に子がおらず	竹原市脇	着物の躾けとり未完の恋を追う	アドバイスされたい方の位置におり	別々の記憶の中に蛍の灯	遮断機下りて構図ぬりかえる	オンザロック迷える心刺すごとし
				田					宅					信					本					
				飛					不					笑					政					
				鳥					朽					子					己					
5	東大阪市	三軒の時計が少しずつ違い	風薫る明治の森に老夫婦	八百年息吹き返す壇ノ浦	大阪市 堀	白髪見ておよその年を推理する	胃袋は盛付けなどは考えず	若葉風ああ若者の体臭か	和歌山市 秋	落武者のように片爪だけの蟹	経験があって見ぬふり聞かぬふり	四捨五入の五で一人前の顔になり	かの後	松山市 谷	しだれ梅素直にながす梅雨のあめ、	病衣すて一目散に退院し	みちたりた心へふんわりアドバルン	幼な子へ唄って母の愛きざむ	島根県	強情を張れば坂道なお峻わし	ここまでの恋か噴水崩れ落ち	花にかこまれ足が地につかず	諦めず角度を変えて立ちむかい	島根県東
	合				П				月															原
	思				欣				宏					Ø					み					福
	月								方					ぶお					どり					子

脚腰を鍛えて呉れる歩道橋 汗流すにも手加減のいる日本 川 村 映 輝	つけまつ毛せつな刹那の恋に生き         釣に出る文豪キッスさせたまま         水境市 関 美 子	信心はするが寄付金出し渋ぶり 信心はするが寄付金出し渋ぶり 両川洋 々 鳥取市 両川洋 々	個人的意見末っ子見直され 大和郡山市 森 田 カズェ 大和郡山市 森 田 カズェ	今日からの歩調私にある希望 一	帰る者帰してもとの老夫婦 この踏絵踏まねば明日へ生きられず 岡山県 嘉 数 千代 香	内幕を知っててさりげない返事思惑もからんで相談まとまらず
タイミング合す言葉の見つからず看護婦の立場濁った語尾となりマイカーのおとぼれ小鳥も知っていた	宿毛市 山 本 窓 花コンピューターの部屋にもそろばんなるほどなるほど五月の蠅か 逃がすまいとアベック互いに手をにぎり	大阪市 塩 満 金の 大阪市 塩 二 二 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本	大阪市 柳 原 静 香二人共とまどいながら嬉しがり 一個然にしたくない幸あたためる	安の日も父は泥田を這いまわり が成のドヤで時効の日を数え が成のドヤで時効の日を数え	か房の部屋に金魚のうすき肌 バラ垣にふれた痛みをだまってる 晩学の絵筆に生まる花菖蒲	共稼ぎ子供生まず家を建て 大塚ぎ子供生まず家を建て

年毎に広がる妻の守備範囲 年毎に広がる妻の守備範囲 かる妻の守備範囲	位置人原市	住合せに浸り秘密が崩れそう 停年の二度の勤めに重い腰 早乙女の年増ばかりの笑い声 鳥取県 林	誘惑を蹴って帰ったあじけなさ雑然とテトラポットは役に立ち家中に手すりつけたい母の足 松原市 玉	何もかも集め東京の肥り過ぎつまずいた日から会話がとぎれがちつまずいて親の心がわかりかけ	栄転に汚職の紐もついてゆき 盆栽の形なかなか年を食う 追取県 福
ふ き あ げ 谷	<b>田</b>		置	ら 岡	H
虎	净	露	重	芳	陽
城美	美	杖	人	枝	Щ
ここだけの話どこかできいたよう まき 水山 内 直寒そうな石仏も見て雨の旅 弘前市 小山 内 直 が地悪いのも居るだろう錦鯉	国を見よと鞭打ち症にされ りかーを待たせて爪を塗っている	今 井		反抗期靴まであっちこっち向き 扇風器まわらぬ方に母座り 爆笑の中のピエロは笑わず	型紙の通りにゆかぬほど肥とりマーチロずさんでも人形やって来ず美しく咲いて幼い芽を抓まれ
貞	杜	松	ッ	世 52	千 寿
男	月 -	花	1	生	子

ボーナスを預けて子供にある不腹 七尾市 松 高	村のボス盟まわしで役に付く	ラブレターだまってボスト吞んで呉れ	大阪市 吉 野	忘れたい過去がいつまでも追うてくる	白紙だから楽しい夢を書いて見る	米子市 佐 伯	に他人以上にいやがら	百姓のだしは農協にも吸われ	青森県 岩 淵	軽軽しく命を車に預け過ぎ	雨降らば降れ風吹かば吹け猫の恋	河内長野市 森 本	順番に団地の灯消えてゆき	新婚の切り抜き料理のことばかり	池田市 白 石	メーデー歌赤がきれいな旗でほし	メーデー歌くらしに疲れた顔でなし	松江市 本 庄	北山杉絵筆の先をとがらせて	追伸を書く時夫の眼を離れ	守口市 岸 本	巣立つ子の明日に控えたおぼろ月	芸能人夫婦互に使い捨て
秀			志			越			-			黒天			良			快			豊平		
峰			津			子			星			子			圭			哉			次		
馬鹿になる事もおぼえた処生術	マフラーをとったパイクを嬉しそう	カート	新潟県		今更に夫の位置の広さ知る	島根県	職捨ててからを日課の土いじり	病妻ヘカロリー表を見て作り	大阪市	国道の哀れ落葉も青いまま	多角化のここ迄も来た出開帳	百貨店で善光寺出開帳	大阪市	火事見舞広告欄に顔揃え	仕事せぬ一日時計も止ってる	新潟県	狂いなく一直線に親つばめ	葬列の故人に関係ない話題	東京都	ベル一度だけの余白が無気味なり	神に手を合すおろかな僕がいる	今治市	老夫婦うちわの風を送りあい
/]	くう	かすき	高。	る窓	<b>(</b>	槻			松				藤			市			宮	9		渡	
Ц	1	3	野			谷			本				田			Ш			崎			辺	
Ŕ			不		ħř	-			市				頂留				60		美津			南	
Ę			-			葉			良区	_	34	-	子-	80		筝	Š.		f			奉	

胸を張るそこに笑顔の僕がいた	倖せになったら走れないかも知れぬ	羽曳野市 大 峠 可	梅雨空へ関わりもなく逢いに行く	惚れたとはまことに是非もなき言葉	鳥取市 近 藤 秋	太ももを晒して試食待つように	知ることが権利やそうな覚えとこ	大阪市 新 川 貞	詩情より月は科学の目で見られ	くすぐったい気持ち父の日もてている	大阪市 岡 本 まさひ	亡き人の話に及ぶ花菖蒲	思い出のふる里の径黄なる蝶	岡山県 武 元 柳	待たす身も待つ身も思惑あったうえ	春風が肩寄せさせているベンチ	羽曳野市 麻 野 幽	エプロンが口笛を吹くマイホーム	厨房に亭主が動く仲の良さ		冗談も云わず余裕も見せられず	生駒山霞んで大阪雨を待ち	河内長野市 井 上 喜	あじさいも去年と同じ一周忌
		動			星			祐			ろ			子			立			竿			酔	
豊橋市	夜更かしと朝寝の癖は老化せず	染めるなど真っ平白髪即わたし	今治市	靴を脱ぐ時にも腰を曲げぬミニ	お祭に夫婦揃うて来た安堵	今治市	信仰の押し売りが来る不仕合せ	物怖じをしない取得で外務員	今治市	もう雨の被害が出てる梅雨の入	血税でする失政の後始末	今治市	一点を見る人形の視野を変え	堪えて来た過去の涙で鍛えられ	大阪市	芸のない旅で手ばかり叩かされ	馳けまわる割に人気のない幹事	和歌山市	ママゴトの目付きを真似た女の	香水で消したつもりの汗が匂う	岡山県	孫泣いて殊更日暮れあわただし	考えをかえなさいよと第三者	愛媛県
鎮			原			古			真	り		伊			小			樫	子		Ш			小
浪			田			野			山			संग्रेट			15			4-4			ш			笠
11X			ш			±Γ			Ш			藤			谷			村			田			原
翠			輝			伶			围			_			清			3,			止			仲
月			親			人			彦			郎			女			みよ			水			美

虚像だけ追うて歩いた路だった羽咋市	あじさいの色に心も染まりそう 腕時計時間の重みも忘れてる 新宮市	音楽に同調出来ぬ汽車の音風呂敷を鯛はみ出して宴終る姫路市	ネオンの灯今日の稼ぎを吸いあず 甘言に人生航路くるい出し 大阪市	其の中の一人手酌で切る口火善処する善処しますで満期です高知しますで満期です。	弓なりに延びてお米が粥となり遠過ぎる視線黙礼まで行かず大阪市	売りと親し	で寝てママで二役おもしろい得が行かぬか妻の生ま返事島根県	死む程の恋でも生きるむずかしさ正直に生きてもつまずくことを知り
三	Ξ	大	げる河	岡	平	西	安	るり
宅	木	原	原林	田	井	本	達	
ろ	千	葉	比 呂	星	露	保	小茶	
亭	宜	香	路	雨	芳	夫	坊	
むせ暑くなってかつらの娘に触れるこれしきの判で他人の貌となり	呼ぶ筈のない声待っている不安 呼ぶ筈のない声待っている不安	広告へまた騙された派手な店 点告へまた騙された派手な店	結婚の費用が恋に水をさし 漂えば風に逆うすべ忘れ	風鈴も気だるい音で義理をたて 方向を波打つ岩が決めてくれ	名幹事拍手の数は年の功 青森県 波	満足りた暮らしの中に知った虚無巡査見て逃げ出したから捕まった	休日の雨の予報はよく当たり 新ダイヤ各停族は見捨てられ	ベテランが覗いてへボは手を休め
	田	エ	内	達		本	井	
	星	静	暁	潮	ただ	藤	本	
	雨	子	風	音	お	持	棒	度

等らそえぬ血すじは孫も爪を噛み 大阪市 会 老人会世話する人もご老人 大阪市 会 養殖稚魚並んでみたり離れたり 大阪市 哲 被し舟ゆられたとこをバスで行く 大阪市 短 大阪市 内 強い母恋しく代りにカーネーション 大阪市 村 大阪市 村 大阪市 村 大阪市 村 大阪市 村 大阪市 村 大阪市 村 大阪市 村 大阪市 村	The same areas and the same and the same areas are same and the same areas are same and the same areas are same	井島藤浦岡部野木天		
--	--	-----------	--	--

### 初 室

耐え難い一と言

えている涙は自己を振り

耐え抜いた日日読み返

一丁古日記

とを知って欲しい。参考までに次の如し。 二三句生んでみることが、作句練習となることれでよいのだが、この句材に関連して、 末っ子も巣立ち忍の緒ややゆるむ ひそんでいるように感慨を述べるとよい。 (末っ子も巣立った妻よよく耐えた) (耐えた甲斐ついに末っ子巣立ちけり) 忍の緒が、ややゆるんだことは、句の裏に 宛 題 | 朝

耐えてゆくゆく手に灯影さすかぎり 耐震耐火有毒ガスに裏かかれ (耐え抜こうゆく手に灯影さすかぎり) (耐震耐火公害臭があざ笑う)

合

すき腹に耐えて美人になれる夢 耐えるのは男女が強くなり 利 美

杜

月

耐えるだけ耐えられるとき満足感 屈辱に耐えて青年にらむ空 (耐えるだけ耐えてつかんだ満足感) (屈辱に耐えて青年雲を追う)

耐え抜いて来た嫁の座の十五年 耐え忍ぶ心を母に教えられ (耐え抜いて来た嫁の座のすわり (耐え忍ぶ心を母にもらいうけ が過ぎて世間を狭く生き りだこ 淳正 秋 重 豐 度 人 4: 観 1/2

ili

耐え難き憤懣こぶし握りしめ
耐えましたそして五十になりました
かしこい妻だった我れへよく耐えて
大正に生れ忍耐では負けず (憤懣をこぶしの中で耐えてい 保静豪好干茂 観 夫堂城一夏美 比呂路

消費プーム耐久力に無頓着 水

からご寛容下さい。(未掲載分次号発表)けてしまいました。以後十分に注意致します まして、教室のメンバーに、大変ご迷惑をかがどう間違ったのか既出題―耐―となっていた月二十日締切の題が、実は一迷―でした (おことわり -朝-八月二十日締切(十月号発表) 岡山県倉敷市下津井三五二 〒七一一 本田恵二朗

和

了

代

本蔭棒

署 一中お 岩 藤 見舞い 申しあげます  $\mathbb{H}$ 出 化 美

梢

村  $\mathbb{H}$ 維 弥

木

ょ しな 代表 から 横 111 Ш 社 古

7.

男は嫁を女子は婚くみんなバラバラ 俺の子にして女ないとは甲斐性なし詩は分らぬが父につくす子が一人いる 老人はホームへ何度も行くと脅かし 盲になるなら一緒になるのでなかったと

猥褻を怺え怺えてぼくに号泣く

五十女イケズされては泣きかえり

## になるなら

### 高 監 亜

鈍 正月は二人だけ南京豆を買うておこ 温泉へ行きましょうとは夢ばなし 銭貯めて養生したい温泉場 偽善者が偽悪者ぶって神を説く 銀婚の指環で共に寝たくなる 二人して泣く休日のテレビ 天にも地にもおれとおまえの二人きり 少し待て母親だけなら息子がみよう あの事故で死んだがましと俺はどうする 父の急病新婚旅行の帰途により 色気抜き男のように笑う空虚さ 若さに勝てぬ悲哀をボックスで

詠 近

人影をかくす石灯籠でなし 例えばの話体よい問合わせ こころ 安静の空虚カーテン明け放ち 化へ余儀なく週 から声 ic 出 i 休二 ては読めぬとこ 日制 大洲市

米

沢

暁

明

衣替え病床の身をためらわせ

読経の長さを老いの

座くずれない

0

T イデ

ア儲

け

10

0

ながらず

須坂

市

高

峰

児

長生きは夫婦揃うて上のこと 今治市

月

原

宵

明

泣き顔になってもえくぼ二つ出る 亡命をする人に似てサングラス

商売商売御機嫌で出勤

今日の髪

病人が素直になって急変し満腹になったら愛は燃えて ゾッとするもの たら愛は燃えてこず に生保の満期

岐阜市

市

JII

鱗

魚

葬具屋 しまい風呂母は明日をもう初め 論 毛虫 0 名刺花輪の値を写し \$ 4 きる毛を生やし

自慢話でねむくなり 今治市 長

金もちの

野

文

庫

もうろくとも知らず丸味とほめられ 金が出来貧乏時代誇張する ビルが建 ち小さくなっ た大鳥居

前 向 歴 きの姿勢他人へ泥をかけ はと恥部覗かれるインタビ 2

黄銅六角ボールトナット

及 U 特 殊 換 物全般

西出螺子製作所

TEL 大阪市天王寺区空堀町八番地 夜間 (761) 三四五二 | 74 四

四 0 ウ

3

### 同 人 吟

秀 句 前月号から一 賞

村

Ш

好 郎

# 余生など牡丹は知らぬいさぎよさ

ろに私は膝を打つ思いがした。 自分もかくありたいと自誠していられるとこ やはり作者の牡丹のいさぎよく散るを見て、 「燃えつきた女のように牡丹散る」があり、 たり緋のぼたん」にも魅かれたが潮花氏も、 の句を五句拝見 し、「愛欲の行く末み

# 知らぬ振りするほど深い仲であり

何を詠まれることにうれしさと敬意を表した 境に入らんとしていられる恵二朗氏がこんな がら詠んだのか。いずれにしても、 験があるのか、又はそんな男女を見て妬きな こんな心情はわかるまい。作者にはこんな経 仲になったことのない人なら、 田 もはや老 恵二朗 よもや

## の序に長岡天神拝まれる

長岡と言えばすぐ筍を思い出す程たしかに西 出 一 栄

うまい。私も一度行ってその味は忘れられ と云いたい。新平家物語ゆかりの社寺巡拝ブ ームに対する警告か。 古句があるが、筍の序に拝むだけでもましか い。「大仏は観るものにして尊ばず」という

# 母をさす指から知恵がのびてゆき

い子がやっと母親の方へ指をさす。それが知「ママはどれ?」と周りから云われて、幼 可愛ゆくてたまらない昨今であろう。そうな い顔が見える。この作者は初孫を授かって、 恵のつき初めで、母親も周囲の人々のうれ まとめられた。味いのある佳句である。 ればこそこんな細い孫の所作を逃がさず句に L

## れない道新しい靴を買う

のがわかる。たましま川柳社の方々にこん現の巧みさによって、凡句から脱却してい 群であって教えられているところが多い。 技巧のうまい人が多いが、殊に克枝さんは抜 を句にすれば平凡になってしもう。それを表 一般み出そうという句意であろう。このまま 去はもう思うまい、今日からの たましま川柳社の方々にこんな 一歩を強 克 枝 3

# さりげなく見守り母の灯も消えず

上の句がこの句のいのちであろう。実感の句 て尤なことである。さりげなく見守るとい もよくわかるし、この句の深い配慮を親とし せた子の巣づくりへむきになり」という心境 々気を使っていられることであろう。 ご長男にめでたく婚約調い、母親として色 「巣立 15 5

### 暑中お伺い 申上げます

費 用 低 廉 短

期

速

成

任 指 導 入会随時

責

大阪市南区大宝寺仲之町

関 室

は強い。

おかまいなくおかまいなくと去にもせ

ちの人の様子が目に見えるようである。 人との関係もわかり、迷惑をかくしているう らせているので一層訪れた人と迎えたうちの 句の内容であろう。「おかまいなく」をダブ た句が必ずしも新しい句とは思わない。 思わない。辞典にも無い難語を並べて気取 にある方が書いておられたが、私はそうとは くん酒山門に入るを許してよく稼ぎ し言葉の入った句 は もう古いとある柳 みのる 0

頼まねばならず、その上席料もとられ 園拝観料、句会のため会場を借るには中食を 作者独特の諷刺の効いた句である。 一流旅館並みの新築の座敷が建ってい 先日大和の○○院へ吟行に参加したが、 た。 る。

庭

### 近 作 柳 楢

### 秀 旬 鑑 賞

前月号からー

浜 H 久米雄

# 大切なひと言ゆえに言いしぶり

じるだけの余裕のあることがその人をより慎 ものではあるまいひと言である。大切なと感 重により賢くさせることになる。 あるとするならば、うかうかと口に出すべき 向かうか或は悪い方向へ転じるかの瀬戸際で このひと言が大変なことになる。善い方へ

## 雑念を捨てて毛糸の目を拾う

好になる毛糸編みであるからであろう。 る。雑念があればつい目を拾い落して変な恰 持をこの句は「雑念を捨てて」と表現してい る真剣な女の姿であるからだ。そのような気 それは心をひとつにして毛糸と取り組んでい 毛糸を編んでいる女の姿は美しいと思う。 葉

### 旅する人々の語らい、動作、 出迎えに来た駅で出迎えの人が降りぬ間に を待つ駅で旅心がうずき出し 衣裳などを見て 静

香

れているのである。 る平素の心構えの表れが一句にまとめ上げら えでなく他人の動作を気をつけて見ようとす へ旅して見たい気持が起きるのは平凡な出迎 である。 いると旅の良さたのしさが押し迫って来るの わが家を離れて自分の好きなところ

## 腹立ちをとめるチャックがしまらな 11

る。 になれるようだ。 で、これが腹の虫を静めてスカッとした気持 い、叱鳴りたい時には大声で叱鳴ればよいの かろうか。人生大いに大声で語り、大声で笑 人はこれができない。がこれでよいのではな 押さえるチャックをしめるかもしれないが凡 に駈られたとき修養のできている人はこれを 7 向かっ腹が立ってなにか叱鳴りたい衝動 ヤックがしまらぬとは 面白い表現であ

()

## 禁煙の宣言ナンセンスでおわり

を得ない人の心の弱さである。 いと言われる日が来ればきっぱり禁煙せざる せ医者からあなたは禁煙しなければ命が危な れて煙を吹かせているのに気がついた。どう りしているうちにいつの間にかこの決心が薄 煙の札を貼ったりその決意を友だちに話した 聞いたりして熟慮の末禁煙に踏み切った。禁 紫のふとん不治の病と知っていた たばこは身体に害あって益なしと読んだり

> あろう。深刻な句である。 だと知りながら贈られたふとんもあることで たが無病息災を願う前にどうせ助からぬ病気

# もう碌をしても出されただけは食べ

当りで、いつか自分らもそうなるかもしれな と変な気持を持つ人がいるだろうがこれは罰 りと食べてくれる。皿も茶碗も空になる。 いないのであるから暇にまかせてぼつりぼつ 頭の方はぼけても胃腸の方はまだまだぼけて れるのであるからほほえましいことだと思う からである。 若い人の中には或は早く片付いてくれれば こうし た年寄りがい ま の世の中に随分おら

なっているから交際上贈ったふとんではあっ それぞれに子が親へ紫のふとんを贈る年に めぐみ

句の車内席題の選が終って、傍島静馬氏の披配られて、バスは木曽路へと走る。昼食時出小牧から国道に出て、犬山で車内に昼食が 走る。 なっ 木曽路に向ってハイウエーを、 十六名を乗せたバスが、グラッとひとゆれし 配られ 島静馬選が発表され、 予報では降らないという梅雨 た車内に、早速臨時席題 ナンバ球場前を出 た酒 やビールで、 指宿のガイドへ栞くせをだし一 回発する。<br/> 句箋が配 す 0 「バスガ か 曇ってはいる バスは快適 られ 0 空の下を、 和 イイド やかに る。 左から 葉・小松園・多久志諸氏

ぐってくれる。

### 本多久志氏が天位をとり、 当の

大井正夫御両氏を交えて、

参加

者三

、日午前

あうすとの

たみの急坂の両側を流れる水音が、雑多な騒 し暑さがなく、 る。いまにも降ってきそうな雲行きだが、む ら徒歩で、藤村堂を中心に三々 五々見学す 声と拍手の内に車内句会は終った。 から、翌日賞品が贈られることになっ 音に馴れた都会人の耳を、清冽な感触でくす より三十分程おくれて馬籠に着く。駐車場か 一末のせいか道路の混雑も手伝って、予定 山の冷気が肌に心よい。石だ ガイド 7 笑 嬢

に溶けてむには、あ の中へほうりだされ されていて、大阪から六時間半、い してしまう。昔の宿場の家並がその 百米程行くと、途端に時間が江戸時代に逆転 迂廻して妻籠へ行く。国道でバスを降 大型バスでは近道ができない 古びた家並の軒下に書かれた「旅籠」のこんな所で泊ってみたい、思わず出る声 皮肉なほどの静け まりにも時間が短かすぎ た都会人が、その雰囲気 さを 0 漂 まま保存 わ きなりそ りて二 せてい K 道 を

見物にとかく時間がくわれ勝で、

予定の

南

写 真 有 信 新 助

4

木曽は端折れ しながら、ホテルの各部屋に落ちつく。迎えに出ておられる前を、参加者は挨拶 ら直接来ておられて、 主賓である東野大八先生が、美濃加茂市 に、三十分ほどおくれて着いた。この吟行曽は端折って、宿舎の恵那峡グランドホテ 玄関までゆかた姿で出 参加者は挨拶を交

の内に終った。 して、少しもダレることなく、 うに膳についた懇親宴は盛大で、 大八、増井不二也、大井正夫の三氏を囲むよ 小唄に民謡、 田柳宏子氏の物馴れた進行で、 入浴後ゆかた姿にくつろいだ一行が、 声色に手品と、十八番がとびだ 賑やかな笑声 マイクが廻り 司会役の西 東野

が始まる。柳 る人の り、 籠に来たことがある、とい 静かな会場で、 が、マイクは要らんだろう、と云われ 夜半から降りだし 机の上に置かれた箱入りの、三 価値観によって千差万別で、 価格は、コストは同じでも、 今席の賞品に寄贈されたことから、 柳話の席に就かれた東野 九時から同じ大広間で吟行句会だりだした雨がまだ残っている八 俳人種田 Ш 田頭火も、 うことから始ま 個の 大八先生 値 それを見 馬 るほど があ 志野 妻

左から 不二也 大八・正去諸正

7 2 た

あって、 でに木曽名所図絵に書かれていた文の借用で 添えられたので、会場から笑声が起 島崎藤村の いようなものだ、と裏話めいたことを 木曽路は皆山の中である一云々は、 他にも藤村の文章には、 夜明け前 0 有名な冒 頭 す 0

れほど などから転用したものが随所に見られて、 き割ることで、 うした技法を用いることを肯定していると、 芸の場合、不出来の作品は、 独創的な名文ではなく、 川柳はよく練ることもなく、 同には耳 世に出ることを防ぐことがで よりな話をされた。 藤村自身もそ その場で叩 唐詩や漢詩 7

> 上げ、生命ある句を後世に遺す努力が望まし 会が終ったらそれで事足れりとせず、その作には句会はよきトレーニングの場である。句に、川柳も作品をよく練ることで、そのため いと結ばれて、三十五分に亘る感銘深い 品をもう一度検討して、より完璧なものに仕 を終わられた。 練った上で、造形されて出来上ってゆくよう た陶芸品は、 ひきつづいて句会に移り、 陶土から吟味して、よく練りに 柳話 何

> > 田県神社に参り、すっかり晴れ

エイを西陽向って、バスはスピー

を解きなが タ風

のたち

ドをあげ、

披講が行なわれた。 也選 れた、兼題「旗」垂井葵水選「 別れ」大坂形水選 「峠」本多柳志選「初恋」 観光雑吟」 櫛」菊沢小松園選 朝食時に出 橘 袖」增井不二 西尾栞選 高 煎 風 選 14 \*

> はじめた街のなかへ解散した。 ら、五時半ナンバ球場前に着き、 ガイド嬢が用意したクイズなど

が恋の人の相手が気に入らず 悲しみのぬけぬ喪服の袖だたみ 櫛入れにふるい女が生きている別れても夜の時計が動いてる 梢、千寿子、 父の日の父は木曽路 旗を持つスパイ笑顔を絶やさない に贈りたいとの、 て、吟行句会も滞りなく終った。 聞と 《野大八先生寄贈の志野茶碗 からの雨も上ったホテルの前庭で、 一の父は木曽路の旅にあり、牛乳会釈して行く夜明け 美代の三 先生の 氏が拍手の裡に受 御 希望 は、 により、花 **本多柳志** 河内天笑 西尾 女性のみ 垂井 藤岡花梢 河内天学 一葵水 寿子 記

新

に回復 念撮影 先生とお別れして、 れた。犬山をすぎた所で昼食の後、 地元のガイドをされて、 と、東野大八先生がマイクを取り、 那峡を後にして帰路についた。 たず快適なドライブである。 して、薄陽の射した木曽路は、 0 予定通り十 男性のシンボルで有名な 車内の拍手を受けら 美濃太田に入る な 上ったハイウ 天気が次第 東野大八 御自分の 18 埃 スは 令もた

までも恥をさらしつづけることになる。

返えすことができなくなって、い

旦活字になって

まう上

ままの作品でも、

É

信

### 垣 史 好

選

論信い信數 ある門 勝てる自 たけ者にatraset知らず 自信を取り ・ 言 0 信 ら自 を振り 5 云 しせときわ

福論の自信 が 馬っと 自信過剰のけ者にされてる 真心に触れて自信を取 入場式みんな自信 に た十は鼻たれ小僧 ハンドルの自信眠 鼻眠僧 たまい いいる満 同豊新バー保思柳素代貞真同 之ッ 生助ト郎夫月子郎男男澄 本蔭棒

お守りへ

自信過剰

深

63

寝

息

K

男

0

自

信

見

3

FI

電

波

新

聞

柳

壇

1

0

お

誘

63

働

健 たい

> どんたく 同 暁 洋 軒 同 扇 章 千 宵 太 水 雅 翁 明 自 勝 V ント 2

てから自信があっ たように K 国

彦

本番を ける自 軸信 K がつ 揺 42 63 7 C 靴 来 3 3 が 自 信 <

鬼

焼

温 泉

渡 辺 乱 坊

選

温泉へ行ったつ\* ったつもりの 0 道菖 と蒲 な風 . る呂 可西 住合

秀才の

自

主人

自

自自信

い崩塩のに

遂げる自

\$

無信が場

中 -御見舞

t

Щ

Ш

高

風

応募規 締切りはありませ 何下さい。 定 せんから + で 随 時 だって

学電朝の大 芸波日三阪 波新 市 係聞聞 北 は (川柳) 大阪本社 X

**〒** 530

心を得 鋏観勢組紋つ信 日よ みの自あ けんしてる版 かをしてる版 い割には自信ないの に信 あ ふ 信無いがた のも信 友 押 無 輝れ n 信口 3 いた てる 混な K U いあ 7 53 でる 0 63 な挙し 自自れ 3 手い信信 豊敏弘止同秋平 城焼次 朗水 月

恋花参威腕風勝自

信また崩れて ゲンい る自 K 隅に 自信 きなり自 人間 に忘れ で 夜さ 57 風 12 くたが兜 な自快ぬ り信い 南梁久扇干 奉水司水翁

ポフ明ケト日

D

勝

ッコ

0

す 湯は効 んな温泉とバッフレ きそうな 0 か人 温地 味仲来 Ł 呂 さ露奨て カ 廻 7 0 っへん天め視足 すな実 でて行の風ら察ら日 穴流 き顔呂れ団ず酔ね 3 0 古 충 0 三伶三本利葵翠貞洋 十 蔭 どんたく 春 峰日月四人和棒美水月男々

温泉へ来てまで早起きの纏漏泉へ出発間際までの おしのおり抜 温泉で遊びる 温ど湯大 温泉へ母のお湯 いむ打つ買 泉の 泉の 泉の 崖に 泉へ妻の顔し の物 泉の 穴 場 を 遇 刊 誌 が 教 えしのびがばれた温泉宿 の 火 事しのびがばれた温泉宿 の 火 事 街は 宿 K タオ るならと 場が効いたか十月日 の客は浴衣で見る ZEI. 浸って雲の上の 0 た顔 びを いう為 in 泉 女 集 ヌードも 温 宿 独 て秘 で温 温 泉 か 0 泉 7 0 で地 6 泉湧くのじゃない 酒 い 酒 び 場誌 泉 書 賞 覗 旅 兄分けられ 陸 癖が出 H つか をがいの 駅 Ž. 0) 15 63 力引 M 0 0 7 選 6 着 T 好 来 L ij. 味 t 客 3 1) 0 3 去 智 暁 翁 綾 カズ 可明 童 女 エ 千鬼杜好宵 白軒保杜不曉越英豪豊松 1 大楼 面

### ビタミン

### 市 場 没食子 選

夫月醉明子詩城生花

専門があってビタミン多 種 偏 新 ビタミンなら ビタミンの元祖日本も名を連ら うまい米ビタミンBは ビタミンを気にして弁当 ビタミンでしょうか肌 ビタミンを飲んで税務署へ対峙する ビタミンをモー ビタミンも足 ビタミン剤 ビタミンにこだわる妻を目で笑い F, E ビ長 F, Ľ E ビ体 ヒタミンが少し 食を叱 タミンを知ら 惠 タミンでも吞 命 タミン タミンとなれば タミンはおんなじ筈 タミンも 調 のレタスが秘めたビ 0 0 0 F. 剤の 調 りビタミンあて タミンなどは PC 理 劾 取過ぎ無駄と知らされる E む俺 何んでも安全かと思 ってペットがひるわする 能書ほど効きもせず タミン E 顔へも ・レツ社 かけてる爪 んでおこうという病気 82 В タミン表にあ 4 6 0 船 ぬるレ 削 0 員 知って居ず 0) +1 出来上 タミンC 0 色と 信じきる 支 62 とり の色 わ 多 62 2 汚す £ 様 節 10 (2 ta 0 代仕 静観堂 どんたく 可越思鬼綾千軒詳新一昌好 之 住子月焼女翁楼月助郎道一 ろ古度松 智可越思鬼綾 子男亭方 月 花和峰

> 強化米ビタミン 含 ビタミンのアンパランスから

む糠

を

捨

7

何にでもビタミン添加し

吹きでもの

翁焼月一明

ili

ビタミンを言う半 金はあり余るにビタミン ビタミンと一 処方笺ビタミ タミンをヨヒンピンと間違うといやす 一緒に ン剤 P C B 煮へが気に入らす C 6 0 b 欠 足 儲食 N 杜梁古素七章七伶南止貞宵晓 身面 月水心郎山雅山人奉水祐明明

F.

活性型とかでビタミン値 軸 ビタミ

シを飲

6

3

J

交

再

開

L

宵

明

かる E 0

銭湯も温泉クラ

ゲ

7

1

7

殖

ž

温泉

行っ

7

来

ま

L

to

紙

袋

信

温泉宿

の奥

新

婚

诵

3

tr.

3

3

寒

温泉でなお

ればば

#

63

病

気

C

す

克

枝

ビタミンを

あ

九

れのんでノイローゼ

不

ビタミン剤

嗤う

治の

れ歩

億

から

ビタミン

剤に 明 ビタミンを飲んでも老いのすぐ疲 気休めにビタミン剤をの ビタミンに振り廻わされて痩せ細

to

徹

夜

11

漢法にも頼

0

ピタミ

シに

\$

頼

洋

12

-47

## 喋らん漫才師

### 「尾栞

上六から近鉄電車に乗った。ふと見ると筋上六から近鉄電車に乗った。ふと見ると所の日佐丸さんはと、あたりを見ると丁度自分の横に座っていた。日佐丸さんは目を開けての横に座っていた。日佐丸さんは目を開けていた。そこで次のような駄句が出来た。

漫才師電車の中で目をつむり電車では別れて座る漫才師

右の二句を紙片に書いて、時りの日佐丸さ右の二句を紙片に書いて、海りの日佐丸さた。それから暫時して又ポケットから出してた。それから暫時して又ポケットから出してることを商売にしている人は、銭にならぬことは喋らんものだと感心して後姿について下りた。二人は多分農協の演芸に出るのだろりた。二人は多分農協の演芸に出るのだろう。足早に踏切を渡って行った。

# 東野大八先生の柳話

## 河内天竺

日迎えのかすり姿の女中さんに混って浴衣姿雨の恵那峡グランドホテルへ到着した時、

# 一分間の柳論

令とんころりと参ったら寛容、包容力に おるユエンか。 は作 ル反対の理由にうかと妥協する♥の あるユエンか。

自然川柳もエーモノはエー主義でして柳ったりします。

五葉時代の句、一万句集中のカサ印の句「樽よし、武玉川またよろし、番傘の当百、自然川柳もエーモノはエー主義でして柳

物をバッタバッタと斬れるんだなと感慨ひと 物をバッタバッタと斬れるんだなと感慨ひと 物をバッタバッタと斬れるんだなと感慨ひと ない。 も自の始強不足だ」という苦言もお忘れ にまどわされる事のないようにして下さい。 また「着想が古かったりマンネリ化している を退近デッサンもろくに書けぬ者がピカソ を裏近だッサンもろくに書けぬ者がピカソ を裏近だッサンもろくに書けぬ者がピカソ を裏近だッサンものをよく見かけるが、これ にまどわされる事のないようにして下さい。 また「着想が古かったりマンネリ化している なは各自の勉強不足だ」という苦言もお忘れ にならない道案内ぶりはさすがである。 にならないが表しているが、これ にならない道案内ぶりはさすがである。 にならない道案内ぶりになりないようにして下さい。 また「着想が古かったりマンネリ化している ないようなものをよく見かけるが、とれ を裏近だッチングが続く。このタマにして大 味よいピッチングが続く。このタマにして大 いるないカーブがコーナーを切る。実に小気 ないといかという苦言もお忘れ にならない道案内ぶりはさすがである。

## 渡辺暁童

ぞなもしです。 一連の作家の句、ホントにえー ある時代の一連の作家の句、ホントにえー

は当りません。
は当りません。

が一番むいています。が一番むいています。

かった。今日だけは私も女でありたいだとはおみやげの茶器三つを全部女性にプル先生はおみやげの茶器三つを全部女性にプルカー、大変なフェミニストであらせられる大いった。

### 馬籠·妻籠

### 一川酔々

本曽谷で恋の火の粉となるほたる本曽の窓から褒める花菖蒲 スモッグを知らぬ緋鯉の住む馬籠 寝元の宿場と知らず燕飛ぶ な六櫛木曽に生まれた髪飾る

屈託もなく木曽谷は蟬の声 馬子唄も霧を透かしてくる木曽路 馬籠から妻籠へ恋の燕飛ぶ 霧雨にしっとり木曽の桧下駄 夜明けまで虫が鳴いてる蒼い木曽 五平餅食べて宿場へ別れ告げ 霧雨の音なく木曽に降る夜明け **唖々と啼く蒼い夜明けの木曽鴉** し木曽っ子流す筏

### あ る日の編集室で

### 1/1 葉 子

毎日 のおびただしい通信物は、 全部不二田

分間の柳論

けを目を走らせてOKです。 す。原稿は、はじめのほうとおわりの部分だ 様に一応目を通していただくことにしてい うーむ、これはおもしろそうだ」 と、原稿の場合、おたずねしますと、 ま

田様は云います。 原稿は始めと終りを読めばわかる」と不二 中は読まなくてもよろしいのですか

ない。拍手をもらえなかったら楽屋へ帰えれ てくれないし、最後に笑わせないと拍手がこ「漫才でも最初に笑わせないと最後まで聞い ないじゃないか」

0 「三枚ほどのテーマを六枚にも書けば、余程 内容のものを三枚ぐらいに圧縮してしまう 筆力がないとダレてしまう。また六枚ほど なんだかわかるような気がします

### E 林 坊

世の中におふくろ程の不仕合せ 貰われてゆく子は袂ただ嬉し どの嘘がほんの夫婦になるだろう 惜しい事情夫を夫にしてしまい 火葬場は火をつけてから夕涼み までを説明する。大体名句を引用するから 水溜りとびそこねても独りかな 心ある人は手帳に書き止めて呉れたりする。 ある。私は例を揚げて古川柳から現代川柳 クがこけたらママの視線もこけた 素人の方から川柳に付いて聞かれる事が 雉子郎 古川柳 秋郎 来ようとしている川柳への関心を持つ人もしている。人間を本来の人間に還す時代が り無き指導こそ必要であろう。 日を追うて増加するであろう既成作家の誤 ている。 哲学があるからだろう。最近読者を感動さ てはならぬと自分に云い聞かせ乍ら説明 す句が少くなった。小手先の器用さに溺れ れる。これ等の中には人情ありドラマあり 物が栄えて心が貧しい世の中が終ろうと ホンの一例だが大ていの人は共鳴して呉

氏。

と意味が通らない。まず書くときに、この内 ヤマをこしらえないとだれも読んでくれない 強をしないとダメだし、どんな短いものにも 容なら何枚くらいにまとめる、そういった勉

た。 書くということはコワイことだと思い まし

JII 柳塔社常任理 事会(七月四 H

月8日(日)開催予定の二賞発表の会と同 社が当番の大阪市文化祭川柳大会、それと10 総会である。 常任理事会の議題は路郎忌と本年は川柳塔

出た。 出席同人諸氏全員に贈呈など、活発な意見が たは副理事長以上の色紙を掛けものに入れて 出席していただくため、前夜祭はどうか、ま 同人総会に地方の同人諸氏に一人でも多く

水、 表したい――と。これは全員一致できまる。 川柳塔社ではなんらかのかたちで感謝の意を 連続句会出席が達成される。この二氏に対し うとしている。 出席一古方、栞、葵水、庸佑、 川村好郎氏が推薦した同人が五十人になろ 生々庵、多久志、薫風、柳志、 傍島静馬氏が今年中に二十年 志、一三夫諸 柳宏子、形

家代仕男氏宅が三日間水浸たりとか。 ▼豪雨島根で岡崎祥月氏宅の小屋が破損、 時半から二賞発表句会、会場は未定。 ▼10月8日(日)午後三時から同人総会。 方々宅はご無事であった由。 その 他久 Ŧi.

## 大萬川柳

## 境」

## **境** 人選発表

入選五十一句投句総数六百五句選者川村好郎

環境を変えても自我は断ち切れず 大 阪 清 女

生

名を捨てた不死鳥となる釜ケ崎 環境代入っています2DK 和歌山 太茂津

NPと背中合せにきた汚染 守 ロ 笑 風

環境は悪いが善意で埋まる路次

倉 敷 八笑人

ボーフラの環境なげく浮き沈み

環境の良さを知ってる渡り鳥

阪万

里

G

月

原点に戻る環境追いつかず

教育ママここも環境気に入らず

環境へ意志の弱さが引きずられ

三林坊

環境絶佳

ガスがないとは書いてなし

U

1

ンすむ頃は緑がみんな枯れ

環境に縛られ女淋しく老け

環境に負けまい僕に明日がある

阪

環境を汚して文化的暮し

環境がぬり絵の色を違わせる

環境に慣れ水に慣れ過疎守る

環境に負けず雀が子を育て 大 阪 満津

ルージュ強くひいて環境に馴染み 大阪君子 とん底で環境なんぞ云うとれず 大阪君子

水郷の四季の詩情が住みつかせ 倉敷 筒子 環境が男まさりの娘に育て 大阪之保

環境に順応平和な灯をともし悪環境抜け出す案を今日も練り 鳥 取 静 泉泥沼に咲く一輪の花を賞で

環境へ手離す惜しいマイホーム環境が良すぎて遠いマーケット環境選んで建てれば光化学好い環境選んで建てれば光化学

路次裏は路次裏並に子は育ち

環境に負けるな母の走り書き環境の整備へ予算ついて来ず 島 根 芳 子環境の整備へ予算ついて来ず 島 板 原 重 人

た。訂正おわびします。

児

子 環境の故だけでなし赤軍派 ・ 環境整備机の位置を変えてみる ・ 環境を備れの位置を変えてみる

環境衛生とやらがゆさぶる小企業環境をどうこう云わぬかせぎ振り 今 治 昌 道 栗 天 笑

ざあますで暮す環境肩が凝り 環境を破る測量の無表情 人ノ句 清貧に耐えて孟母に遠くいる

羽曳野 吐

水に気をつけろと左遷も見送られ 人ノ句 兵 庫 可 住

に慣れた惰性をふと気付き 堺 天 笑地ノ句

環境はどうあろうとも私です 環境に慣れた惰性をふと気付き スノ句 倉 敷 千 翁

環境はどうあろうとも私です 環境はどうあろうとも私です 第五回「家」の入選句 働いた靴音になるわが家の灯 働いた靴音になるわが家の灯

九八七六五四三二一 芳太干英可里天弥吸 茂 子津翁詩住風笑生江 ベストテン

八九九九八一一二二 五〇〇五〇〇五〇〇

〇九八七六五四三二一〇 一白葵简静醉逓美梁重牧 三水水子泉夢児代水人人

000 5 5 5 5 5 5 6 6 0 0 5 岡 和 倉 鳥 香 松 富 倉 松 神 町 山 山 敷 取 川 江 林 敷 原 戸

> 元六七六五亩三三二 八弥瑞可智静克水修 笑栄 人子枝動子馬枝客史

**内内内内内内内内** 000001110 倉富米 羽 大 宝 倉 大 大 敷 林 子 野 阪 塚 敷 阪 阪

十回

八月二十日 五句以内

五句以内

H

昭和

投句

萬

· 使番号五四二 川柳塔社内 大阪市南区鰻谷仲之町二○

んなの暮しが明るくなる セキスイのプラスチックス

積



三区月紙各雨のい区午柳▼で地社条荘▼ 田健水宛。 一時から名古記し百円封入 「大藤譲三〇一」 「大藤龍三年中の四百里 「大藤龍三年中の四百里 「大藤郎」 「大藤、 「 ンロスのは、 (根理) からない (根理) からない (根理) からない (根理) からない (根語) ・ (相証) ・ (相 のをん柳日

ごはば社以 参じ川の和 加め柳三貴

殿広会▼宛藤に封各と直泡Ⅰ台一十・▼ 悪勝方、東北川柳宮城野三〇号 一田(自)・地大会性 一田(東北川柳大会性 一田(東北川柳大会性 一世(東北川柳大会性 一世(東北川柳大会性 一世(東北川柳大会性 一世(東北川柳大会性 一世(東北川柳大会性 一世(東北川柳大会性 一世(東北川柳大会性 大会 一世(東北川柳大会性 一世(東北川柳大会性 大会 一世(東北川柳大会性 一世(東北) 一世( で島は第 開市八十 催比月六四 兼山日広 題本午島町 石山十和 公事務後 一百世末の 一百年末の 一百年末の 一百年末の 一百年末の 一百年末の 一百年末の 一百年末の 一百年末の 一百年末 時から

### 望 展 柳



(木曽路の旅) 左から岩田美代さん、東野大八氏、 藤岡花梢さん (写真・新之助氏)

### 風 董 高

触一神路百寸正1ら八の 載さた見社誌路市 れたげを催のして

東▼が彫座は▼い当こ筆「べふ▼セー大▼ず「句と努出麻和▼か月▼句宛風上京川好刻に県浜る日つ田木もあ大ン時会六」踏会り力でなが崎、一大大を中野の講内野。の飴県曽のう井タかは甲石に、でなったが崎、十大を中野八 にも妻特い車発和市一魚使三七月 総合福生記念川 祉後柳

中央区第一の老童氏 

したましたました。 一へ来雄、寄したました。 たイス と、物価のの 大手に 大手が通じ 横句月四長 送版がに十屋上 高ルた備路で 八十録る年か

富田林市富田林町24-4 TEL 07212 3 2 0 6 4 ▼米沢暁明氏 (大洲市) は 大月二十一日伊豆下田から 「踊り娘につい会えそうな 伊豆を行く」の句信を寄せ られた。校長会事務局とし ての研修会するのを。 「新居の住み心地は上 な。近くに住んでいる係も を再会するつもりです。 会を再会するつもりです。 会を再会するのをのが 楽ます。六月末に新居で句 来ます。六月末に新居で句 来ます。一個路回人) は英質保駅長就任以来約半 は英質保駅長就任以来約半 は英質保駅長就任以来約半 は英質保駅長就任以来約半 「踊り娘! 大月二十 おられる いととい F い景 曲 いろいろありま! の解 氏(小 渋松 し市

> 管賞鉄 き総

> > 0

省

状

▼大矢十郎氏(新宮同人) は、馬籠・妻籠からの柳友 を寄信、「寄せ書のひとり ひとりにある笑顔」 ▼土岐ト・ク子さん(大東同 人)の令嬢の結婚式に出席 のため上阪して来られたご 主人が、突然に亡くなられ 喜びと悲しみを一時に味われた。

常十潮

盤九花津日氏

0

の山姥を踊ら1(火)に三越(高槻同人)

6

賞された。又、天王寺鉄道 管理局管内でも三位の賞を 獲得された。 ▼山田季賛氏(高槻同人) は六月二十日から五日間の 北海道の旅を楽しまれた。 函館・支笏湖・登別・昭和 野山・札幌などを巡遊、― 生まれて初めて北海道に夢 があり― さ局れ裁 も三位の賞を授

▼藤井明朗・岡崎祥月・吉・で在阪柳人と交歓、七日は岡逓児・柳楽鶴丸・小林孤宮に出席されたが前夜八木摩天郎居での堺・松江・木次・若芽合同句会でをいまれたがある。 にがみ走った切れ

▼大江秋月氏 (姫路同人)

▼大江秋月氏 (姫路同人)

台笛生氏

質に三位入賞、国十六年度の全国鉄

新

同

Y 紹

介

大

重

好 谷 郎

.

夫 推 夫

ことしのアサヒビール

摩天郎・静馬・柳志・儀一 ・天笑の諸氏も行を共にして高野山へ参拝。 ▼路郎忌句会に広島から林野野光、高橋鬼焼、槙田英詩、竹穴静水、三宅不朽諸詩、竹穴静水、三宅不朽諸詩、竹穴静水、三宅不朽諸詩、竹穴静水、三宅不朽諸詩、竹穴静水、三宅不朽諸武小ら、新宮から、川上久司氏、、新宮から、川上久司氏、、新宮から、川上久司氏、後田常。

とえる場響 命名、これで女孫五、男孫には三女に男孫誕生啓司とには三女に男孫誕生啓司とを救し男孫誕生、五月の一次ののでは、これで女孫五、男孫 ▼れ劇は▼ 清た場八若 水。で月柳 飛弹 画田 及堂内。 H 南 になりましたと。 等議清 弾の高山方面へ。等の視察の旅で金沢から議会の公害対策と都市計議会の公害対策と都市計 (日) 大阪川柳 会場 会場 かから、加柳会 柳会以 18 V 、一題八 南海電鉄本ヤン・子連れ・ ン・子連れ・ 会一八月二十 以和貴荘。 た常時から、 ただのよう。

的ます。 収川 V た。

慢秀なる成績を市南区医師会の路氏(大阪市同

ご全快を祈

六日(土)午後六時から、 カー。会場ー近鉄永和駅前 東大阪市民会館二階。 東大阪市民会館二階。 東大阪市民会館二階。 単一七月号創刊で力を持ちれる。 上月号創刊で力を持ちれる。 一七月号創刊でありゅう灰皿 小松川柳大会は九月三日 小松川柳大会は九月三日 小松市小島市公会 中いておられる。 東大阪市民会館二階。 東大阪市民会館二階。 中いておられる。 で開催。題・自尊心・ハ 会で別権。の気を 中いておられる。 は昭和生まれの柳人七 大・約る・惜しい・ 中、ベスト・いのち(伊藤 では、大摩藤 では、大下で、大田 では、大下で、大田 では、大田 では 細次号。

### 疲労回復・肩こり・神経痛に

☆25ミリ錠・ほかに5ミリ錠 ☆食後すぐのむのが効果的です

28



☆くわしくは医師や薬局・薬店で

### 妻に感謝で今 し日花が т てのの住 揚 玄一個む 関歩性玄 にをが関 靴励歪に をまめ男 はさら下 くれれ駄 朗 祥緑小清 月水園人

題

玄

関

祥月

選

### 本 句

会場 以 午 和 貴 荘 時 コセビンージ

### 沢 小 松 囊

て直かないる。とすみ

は、広島、香川、新宮ほか友遠方より来たる路郎忌句会。ありがとうございました。 生々庵主幹は路郎先生の思い出から、訪米みやげに在米柳人のあり方などを柳話におりた。 生々庵主幹は路郎先生の思い出から、訪米みやげに在米柳人のあり方などを柳話におりた。 を著れた。 生々庵主幹は路郎先生の思い出から、訪米みやげに在米柳人のほとんどは八十、九十歳という老人なのに、頭の回転も階段の上り下りいう老人なのに、頭の回転も階段の上り下りいう老人なのに、頭の回転も階段の上り下りいる。日本語を知らぬ二世、三世に川柳を受けつがすことの困難さなど感銘深い柳話だった。 「河井庸佑整理」 である。月間賞杯は大国たかし氏が手にされた。 なすがに路郎忌である。お珍らしい顔、顔である。月間賞杯は大国たかし氏が手にされた。 に川柳を受けつがすことの困難さなど感銘深い柳話だった。 に川柳を受けつがすことの困難さなど感銘深い柳話だった。 に川柳を受けていました。大きで発表します。不悪。

テルネ ハスト匂わぬがスのもう一日 題 ビジネス が美人ば マイ か椅ル 子を寄り見る るせ女 東 東三洋十

樹四信

き女えいる い緑之不酔悦花鬼花逓可潮形凡一牧芳藤軒豪静一野正 わ 九 観 迷 を水保朽夢郎稍遊梢児動花水郎舟人子持楼城堂栄路朗

朝 の 気協する 食れを気 て惜を へし見 しむせ 恋折爪は 終ら揚じ るれ枝め 洋樹 明儀滋い 選 一雀む

爪爪舌爪

場技き技

枝虫へ

満場乗再肌もろ肌 員前出ま をはを ののし 背人たす 彫って主 人たすい脱 てる をでぐ 慢を 肌 知定気のす出 りめ魄艶るし 紫軒正芳豪 太 太 香楼朗子城栄

正ヒおヒ第ト人と ではいい。 ではいいではいる。 ではいいではいる。 ではいいではいる。 ではいいではいる。 ではいいではいる。 ではいいではいる。 ではいいではいる。 ではいいではいる。 ではいいではいる。 トに救われる 柳 かったことにする 水 で た 勘 ほ め る いっして も知らぬふり なしても知らぬふり なして も知らぬふり ない トロかめぬもど か してほしいヒント出 トつかめぬもど かしっかり答えも教え かったい かっちょう かっかり ない かっといい かっちょう かっかり ない かっといい かっかり ない かっといい かっちょう いっかり ない かっちょう いっかり ない かっかり ない かっかり ない かっといい かっちょう いっかり ない かっといい かっ 本多久志 甦智博一久一維荒好 菱干古久綾水英柳 三 二久 光子也夫司三子助一水子方司女客詩子 小十静水博弥静古重敏甦智博

松園郎香客也生馬方人

生物・一等・一般では、 ・一舟・花梢・一三夫・たかし・与呂志・鬼焼 ・一舟・花梢・荒助・肖二・水客・柳 ・明朗・滋雀・水客・清人・没食子 ・様子・民力・正朗・微子・大学・一・形水・天樹・重人・柳宏子・太 ・光力・正朗・徹舟・幸太郎・宣介 ・発へラ・正朗・徹舟・幸太郎・宣介 ・と・多人志・静香・岳人・和安子・太茂 ・鬼遊・あいき・北州の一・神 ・鬼遊・あいさむ・瀬太・神也・ ・鬼遊・あいき・東洋樹・薫風・ ・鬼遊・あいき・東洋樹・薫風・ ・鬼遊・あいき・東洋樹・薫風・ ・鬼遊・あいき・東洋樹・薫風・ ・鬼遊・あいき・東洋樹・薫風・ ・ 鬼遊・あいき・楽大・ ・ たん・石一・ ・ と・多人志・静香・岳人・ ・ で、 ・ で、

1 黒・赤・青 ライオン ライオン 温井商事株式会社

醉滋静誓与君甦甦栞花柳天不百水久酔英 呂 夢雀香二志子光光 梢志笑朽酒京司夢詩

男気を出して戻った優越感がまだ残め 魔越感でいささか円の優越感 大公望きめこみ優越感がまだ残っております優越感がまなく昨日となるモード 優越感がかなく昨日となるモード 優越感がまだ残っております優越感がまだ残っております優越感に浸っております優越感 大公望きめこみ優越感がまだ残り と言う優越感でビキニ着る のはいなるでビキニ着る ではぐらさればり を表った優越感がまだ残り を表った優越感がまだ残り を表った優越感がまだ残り を表った優越感がまた。 のはいずるさか円の優越感がまた。 のはいずるさい円の優越感がまた。 のはいがまた。 のはいがないがないがないがないがないが、 のはいがないが、 のはいが、 のはが、 のはが、 のが、 のはが、 の

紫静祥君滋与勝軒一芳正 とんたく 呂 呂 太 香歩月子雀志晴楼栄子朗

大き、からない。 石仏の温み風雪のなでた肌 がいれてからほのぼのと恋ごころ 肌ふれてからほのぼのと恋ごころ では、肌 を動「優越感」 西尾 大きない。 大きない。 では、いまない。 大きない。 では、いまない。 では、ないない。 では、ないない。 では、ないない。 では、ないない。 では、ないない。 では、ないないない。 では、ないないない。 では、ないない。 では、ないないない。 では、ないない。 では、ないないないないないな、 では、

> 栞 多鬼水小 選 久 松 志焼客園

べ優優花役優秘優優美コニぎ白散君若キ優優優エ献高優優う優優ゆ雑小優借天 れるけ感りき感い子感るし感すトりるすよ誌るる感故信せルりな ずず巾る居感

出あ霧旅独旅旅旅旅ゆ旅旅旅紋隣人コ人バ駅旅旅陽 嫌す晴人酌人人人人き人 大次席生ン情ス弁な慣は たっないました。 ないはれののの人にの人 大力がある。 大力がな。 大力がな。 大力がな。 大力がな。 大力がな。 大力がな。 大力がな。 大力がな。 大力がな。 大力がな 大力がな。 大力がな。 大力がな。 大 のもて期旅のな情にりので罪が旅はル触窓買たた西 に加入へも跡 にれたへものますとこと。 湯らとし何派が、 気とは川慣等し気は手ぬ当な駅く時のきのらの 湯らとし何旅がへ旅安チ とは川傾っしかは「手降当な駅く もまがればてに成んな」でいいい。 なムトでにるし、ロールののま ねなたよてにるしなんな のる歩ご遍名刑で程でるし嘘のまか夢旅無し のきのらのが 一旅きれ路を事く美旅山てを旅がはひに事く息い独 人の出すす残のれ人の時帰言人合去ら出祈な立くり 旅人しぎるし目ず系人雨りう宿いるくるりりてる旅 喜花醉鬼英牧鶴明栞修鬼一太静一藤正 ど章芳清軒野 二茂観 たた 大本 史遊三津堂栄持朗 風梢夢燒断人丸朗

か

越感がさればながある。 題 一のあ回あたをキと

「残るっ」

「世間来り 匹義るっ 我なっ て人で 狼優ら優間お子にに と越声越がけに映な なにをを出と乗っい つ見和か来一せたほ てせらみと歩て優め 中島 い来げめらひお越言 るるるるんくく感葉 生 N 庵 選

栞悦英博恒庸 葵多い 久さ 郎断也明佑水志む

優い優聞優優単敗優

調ザ肚

三ボ旅旅旅旅旅定除旅団握あ旅夜信鈍旅旅宿見旅う中旅旅旅旅С日句峠シ 味だへん人人人人の者のでうでとけば旅に嘘なーにいと居たのの馴美とくチのけへひいのをえに味でうでとけば旅に嘘なーにいと居たのの馴美とくチ 0 の馴美とくチ と染求化風ヤ 旅で出 0 旅の標歩そ美無旅ーンがて妻事が長て女があし雲旅しに花<sup>夜</sup>ずるに山く鈍のれ準道こし人続人コ薄いのが鳴いいあィか降流のま住蜜<sup>の</sup>雨車た頭れ行 雨ん語橋ねい駅く旅屋れる里りり旅るりドしりる人れむ柑蛙蛙窓ち火る車 潮葵静天博十紫滋い十い水太古東儀岳天静静多酔荒柳美葵酔博葵新-た

花水馬樹也郎香雀を郎を客津方樹一人笑馬馬志々助信房水々也水助夫朽子



切は25 原稿用) B 1着便。 紙 K ~ 書式は発表誌のように。 1 、書き。 文字は楷書。

金井文秋担当

JII 前月

糸口を探のいいちの 糸口を探のいいちの 糸口を探のいいちの 糸口を探のいいちの がついる がついたちのいい。 よう云うてくれたと毒舌おだてとき脈おちて医者は今 夜 を 危 な が り 筋の脈 おちて医者は今 肋の脈にする 1 探孫い ア子 死に よっ れのば騒 F. たい一大うてる CX 供 が脈 質 り明 0 っが欲ぎ 部屋は子にまかす 屋 3 あ 10 もへ れい 7 つ嬉通 3 内 # 7 を を 62 脈があり 秘飾待知 当が馴 0 権 0 八章柳静一牧静肖 頂喜好綾好金 留子風 郎雅信馬栄人香 一女郎三

> 気に入ってくれた下 1/2 JII 穴場あると下見が 柳ウイロー社 を品 ヘハワ て縫物 曲 10 う他 は 1 酒来る 気にた遊遊が なな二歩歩買 林 0 蒼 り人道道い 楼 報

はきもので居留守がばれる運のつき はきもので居留守がばれる運のつき はきもので居留守がばれる運のつき 留 守 番 へ 天 下 太 平 昼 寝 す るるのには早いと 夜 を 惜 しむ 母ねるのには早いと 夜 を 惜 しむ 母ねるのには早いと 夜 を 惜 しむ 母なるのには早いと 夜 を 惜 しむ 母なるのには早い み いんも 逐い 留守宅へ名刺が 惜しかっ あらい 惜しまない喜捨で立派な寺 談がまとまり娘 10 た魚の だくれ わおく < 太 3 時には 3 0 ま が を手 惜 b C 出 妻 < 0 がの す 惜しみい のつき 降建智横な 話 3 母け 131: きにる 3 5 車 b 明 榔暁 紅雪快万蒼河北峯エ拝三カ十子 子 タ郎 舟 溪 女 起 歩 楼 舟 海 円 子 山 石 女 吉

な変れわ。 な変れわ。 な変れわ。 な変れわ。 な変れわ。 川柳われる のれん出っ でれぞれる 秃小助 頭 を もかが家のおせれかが んを母 て見上げて最前で ての のドラマ 3 老 か家のお茶で生む ま 步 向 妻 不 ら続 る る母列 0 れ 茶 星空ののう肩 吠え 7 < のに夢席け を 专 おばアちゃん n 0 ま 話か 寸 孤昼がにて 席にいる 切え す 独のあ < つゆに乗 80 0 れ 感月り 3 3 葵水報 守太茂津 和義三郎としよ 太茂 凡陽昭延光三富

津夫一伸子治幸子

用 短 묘

1を探 雲 百 1御碕吟

して見るよ

切

٤

する

つい

C

順

0 0

下

見

公害の バ大

H 座っ

照

17 62

7

レるまで の和

T

字になって天

井

指が

く定生三

2

0

雨 25

私

を

10 触 K

出

t

る先雨雨る席れ

城其和紅勇政芳

石夕美梅次夫童

垣 草丘報 軒太楼

ひとつ

ろがの

まな生

0

63 ぞ岩娘

2

皮長園

着

替

<

当び葉ぬ

が遊

台に は

ど吸 2

文

返事

0

方

を

ま

同

な

ま <

b 0

歌

Ш 短詩

型文学クラ

61

## 婦

への

1 異

ル性

0

け 買 た

社

面

0 役見

を

出 会

3

到前

雀久

子司

いるのを葭乃先生にお贈りいたしまれた。ア先生のご都合で、すでにピリオドカの生のこれが、このほど若干の会費、川柳雑誌社時代からの〃婦人友の^ たしまし 目が残って が残 会 は れ酸

山中 川島 茶石

50 棲 異

0

あ

ふみよ

鳴き竜に拍り ・ 大井のシ 大井のシ 大井のした 誘惑をしたと 誘惑をしたと 誘惑をしたと 大井のした なと 復活へ 間名の 裏のある誘いと知地下足袋をそろえ んぐう 下足袋 り酌所き頃るい年胸狂くす 3 まさ子 とよ子 義君良純直光郎

風マ初足就足に綾にホーー ってりへ 発で 発で 引 JII ť K うささやま 大の指土地と変り一人と笑って 大小指主役と 大小指主役と 大小指主役と 大小指主役と 大小で送っ 大一で送っ 大一で送っ 大一で送っ 大一で送っ 大一で送っ 言止 居め 小地士ら しがこはてたの指成がれ いえずい株座 一金ケは るむるのに 番にりや 先靴ベーつ力かを共 減なれ斗のッ発か入らつ白 る町音ド屋せれみけ髪 みの る報 与古近清 葵十久富暢 み八素 峰住音山る陣水志仙江香 水郎司子

けび

故あで風

峻富裕一悦延

きき きり けんしん

りけめてええせ後酒け

富裕一悦延ふ増義春好美亀千竜 伊み 知 枝 子美風朗知よ蔵広亭子子川子

み直栄 さお吉

7 気がかりをふる 1 知川 を迫 ル E 1 ス るに向変 柳社 をま I 1 1 1/2 にかける る知 コ 中市 13 0 言 背イ え V ント 飲 まさ トゲ待い びま貸返な読川 丸出 れる める 無湯英とゆ無忠おおお鬼

再会の案じた程にない身なり類製にされて小鳥が生き返り製製にされて小鳥が生き返り製製にされて小鳥が生き返りま屈は小鳥に人差し指を貸したの穴奪う埋立地が伸びる宿の下駄切ってカニを拾うまいまを期のカニが甲羅を替えてみるとなは静かに眠りたして右信の美なは静かに眠りたしるのりせぬ明日へ救いの雨が降り気のりせぬ明日へ救いの雨が降り気のりせぬ明日へ救いの雨が降り気のりせぬ明日へ救いの雨が降りる店を持ちるととは神がる店を持ちるととは神がは、神縄使われる時が、中の種に沖縄使われる時が、中の種に対している。 抜きに 車疎開が安い 12 麻開 1 するので を手 を別の記ぐ 一柳会 1 ロフ K 4 してか 憶 てからたし 1 が からので しか 多 1 市 怠め考奪山 るげるいし 戦本素 3 い遠けりるしちり園 一 公大星伊一窓勝風 津二 十風水迎風破雨志三花子 恵 好 酔 慶 百 美 郎 々 助 酒 美茂た桂竹寛芽圭澄夢松大星伊 百郎 知子し緑荘 報

0 4: める 途 中 下 車 必 きを 里

帰峠木花発結 八猫 な 高 育 盛 ラ は え さえも 妻の一 道 蒲絵 乗生 T ッ水 カ 顔意恋に 先 1 85 りえ ュョ宴 ばえ ラに とマ ず 越順 L か L 風 3 難 たけなわで打 -え ね民 5 1/2 ば知に 4 1 62 っ乗 7 から 供 3 持 悪 太落 0 3 0 63 ち 俄 5 か 水 切ら か のの家帰 T る 味味庭 ず 0 がれ 颗 好 寿 慶 幸 一 立 美 星 節 茂 枝 水 郎 子 子 子 世 児 子 斗 子 児

遠は浮宿方放明に気帳言浪 行者 気のに 浪ど 廻 言 の旅 者の 25 を りの旅妻 と楽 歩すの 権鉄川 権 セリっ 9 5 路 ま って JII は 斜 れ 3 ゆ柳よ摘 柳 歩募お 会(大 む むいじ れ 陽 会 L 今犯 (大阪 3 85 炒 加 孫 (羽曳 H 논 7 は 人 0 0 0 やるだ 生 は取 0 書 き < 白 か 野 市 い鈍 市 す日り 長 き 空 ま ぎ曜逃す 辻い手模た行と 飯 ス 旅よ様頃 車い 悦郎 圭水報 和宏貴 好サ龍吸 文悦 報 3 虎江作郎 二郎郎子山 郎

家庭

たまの

L

+

T

脱

63

變

汗の

ら月

松

柳闌

て行く。 か 15 かぶに っか 0 びかぬい | 涙は母 わ 2 か れの高 0 た そうな か 3 中校 かつらてするだいて値に こつら 0 にあ に 買 木 う 才 10 顔 3 っ種 児が笑 となをか てをば 恐消 決ま っ曜 1 1 れゆ 62 85 岳摩順柳儀み市恭金育天 

子寝倖肩亀亀お三

の必

背死

好帰を組 のにせ

茶ん 0 7

花

てにに

女生人

女見

る房で亀と

だの撮が晩な

の庭子を

活め花す鳴

生けら盛彼ら

綾弥岳栞酔葵

す甲洗

羅面 校

を器

きえ

もち

は 愛

と銭 孫も

10 10 き

ま

b

0 b

々 水 園

目

67 な

いい理

邪 亀

魔 這

な放

やは

で可

三
こ
引
石
石
日
の
合
遠
に

や投 邪

2

たの

もう

邪 あ

3

れ

留子品頭子

小肖美頂雀儀

K

3

野魅

を

五月晴か気がつられる 式母経釣沖賜終子木糸郷盃 糸 縄 盃 が手お ンぬぐ 南 (まりぬ ぐ 南 ) あぬけ今か毛かす 手 垂 K 選 0 n 冷え 男 輪 \$ 午 H 島 L 0 五五みげ 五春 Ŧi. を 夜を居 月月月合落の乗 印 被 3 け晴岸晴晴晴い ち夢せず + 小潔良 河嚴悟香眉 太郎平郎 豊水人郎

尾菜 の花川 誘 仕事代 鳩 ラス わ 00 n 恋罪に 愚の 柳 の誘い に信念く き聞いる 縄 知 て女れ 0 でか 3 n h 悦 葉美誓静 郎 報 郎子幸二馬

眼と

市に付

岸ま纒

石花誘誘ガ 地のわわ

> 香れ れ

K

柳

昭 第和 24 47 回年 度

B 時 47 会年 11 阪 19 日 文 化 日 10 JII 時 柳 開 場 12

兼講会題演場 中開 小 集会 本 芳川選 宣全星選 八選 選 民

舌合日妻 鍵本上 頃 の社 会記 事 か俳 5 貴榎 田

日 出句(締切 IF. 席 西西堀岡 尾村口橋 塊宣介

集化席句題 祭川畑の以外表 柳 賞・選挙 口会場で 賞 者賞 付

句賞

投

各題 当日

者

句題

5 2

日 申込受付。

63

時

### 募 集

近作

柳

樽 塔

10

句

菊 西

沢 尾

小

松

園

選 選

近作柳

樽

10

包

菊

沢

1

松

選 選

栞

課

吟

各題5

句以

栞

JII

柳

+

-月号

発表 (10句)

(8月15日

1締切)

課 ★原稿は四百字詰原稿用紙に四枚以内。文字 は楷書で新かなづかいにしてください。 題 手ぐす 吟 向 (各題5句以 ね き」 1 越 智 Ш 蛙 恒 眠

子 水 選 選 選

> 素 通 題

直

渡

步 里

世

N

ぼ

木

П

V

内 辺

圭 独 桃

選 選 選

★川柳塔欄の投句は本社同人に限ります。 ★用紙はなるべく柳笺をご使用ください プ ス 竹 JII + 柳 塔 月号発 10 句 表 四 9 月 尾 15 H 締 切

### 10月8日は同人総会と

昭和和 一年年分 定 四四十十 発編 価 財所 行集 七年年 大阪市南区鰻谷仲之町二〇 人兼 阪市南区鰻谷仲之町二〇番地 便番号 大陽 百八十円 振替口座 大阪·三三三六八番 電話大阪・二七一—三九八五番 千百七十円 二千二百円 七 印 月 月 五四二 刷 干 (送 株 Ŧi. (H) 料 Œ 式 十六円 H H 会 \*1 #1 発行 印 社 共 郎 刷

### 社八月 句 会

席題 会費

百

円

★投句だけの方は切手50円封

入

三題

当日発表

兼頭

屋べ柳 原爆追憶」 寝

川大菊本西

わきそう 電話622・1275番 倍野区松崎町二丁

日

時

月

七

日

月

午後六時

以 八

村坂 各題三句以内厳 63 尾 好形 柳 郎水む志

選選選栞

★電話での投句や訂正はご遠慮願います 大阪市南区鰻谷仲之町20

> JII 柳

塔

社

オリンピック 青 写 真 人 9月の兼題 真



▼今秋はマキシー、ハンタロンが色彩型かれたろう」とはOSといたろう」とはOSといた方の大ほど長い物を指定の方のアチラでもおも七月からハンタロの大ほど長い物にでも若がえるうか脱価を必めて気持ちので気持ちのである。

暑中お見舞い申しあげます

季節料理・折詰





大阪市阿倍野区松崎町 TEL (623) 5031・5032 南区畳屋町三フ寺センター TEL (211) 9 1 8 4 創刊大正十三年 通卷五四三号 昭和四十七年八月一届発行(每月1日発行)昭和四十七年 七月二十五日 即 剧 电阻射阻计 1年 月 九 日 第三種鄭便物認可

川柳塔山

八月号



監 奥新和歌浦

· 雜賀崎

国際観光旅館

魚人樓

TEL 和歌山 (44)0431 · 1186代 大阪案内所 (641) 3 5 6 4

語る 岸美を

